

参考資料1 エネルギー消費に関する意識調査結果

資料1.1 調査概要

(1) 目的

省エネルギーや地球温暖化対策に関する市民・事業者の意識、取り組みの実態と意向を把握し、ビジョン策定の参考資料とするために、市民・事業者へのアンケート調査を実施しました。また、アンケートでは、先進的に省エネルギーに取り組んでいる市民・事業者と一般的な市民・事業者の意識や取り組み状況の違いを比較して、今後の取り組みに向けた課題を抽出することも目的としています。

(2) 調査概要

調査方法：郵送によるアンケート票の配布・回収

調査対象：市 民 無作為に抽出した市民1,500世帯

(先進的に省エネルギーに取り組む市民として「金沢市環境教育・環境学習推進会議」及び「本ビジョン策定委員会」の委員、参加団体の45世帯を含む)

事業者 無作為に抽出した事業所1,500事業所

(概ね市内の業種別事業所数等に応じた配布数を設定、先進的に省エネルギーに取り組む事業者として「エネルギー管理指定工場」及び「金沢市持続可能な社会を形成するための連絡会」の参加企業の100事業所を含む)

調査期間：平成15年8月22日～9月5日

調査項目：市 民 ・回答者とその家族の属性

・地球環境問題や省エネルギーに関する知識・関心

・エネルギー消費機器の保有・使用状況

(冷暖房、給湯、調理、家電、自動車)

・家庭での省エネルギーへの取り組み状況、今後の取り組み可能性

・省エネルギーに関する自由記述

事業者 ・事業所の概要

・地球環境問題や省エネルギーに関する知識・関心

・事業所でのエネルギー管理・省エネ推進体制

・事業所での省エネルギーへの取り組み状況、今後の取り組み可能性

・省エネルギーに関する自由記述

回答状況 市 民 回答数516件、回収率34.4%

(うち先進的な取り組みを進める市民 29件)

事業者 回答数561件、回収率37.4%

(うち先進的な取り組みを進める事業者 76件)

資料 1.2 市民の回答結果

問 1 回答者の属性

男女比等

	回答数	割合
男	327	63%
女	178	34%
不明・無回答	11	2%
合計	516	100%

	回答数	割合
一般的な市民	487	94%
先進的な市民	29	6%
合計	516	100%

年齢、職業 在宅時間

年齢	回答数	割合
10歳未満	3	1%
10代	3	1%
20代	23	4%
30代	59	11%
40代	78	15%
50代	124	24%
60代	117	23%
70歳以上	98	19%
不明・無回答	11	2%
合計	516	100%

職業	回答数	割合
未就学児	2	0%
小中学生	2	0%
高校生、学生	4	1%
会社員等	223	43%
自営業	58	11%
アルバイト・パート	38	7%
専業主婦	48	9%
無職	122	24%
不明・無回答	19	4%
合計	516	100%

在宅時間	回答数	割合
～6時間以下	13	3%
～12時間以下	189	37%
～18時間以下	151	29%
～24時間	133	26%
不明・無回答	30	6%
合計	516	100%

家族人数

人数別	回答数	割合
1人	81	16%
2人	157	30%
3人	103	20%
4人	96	19%
5人	41	8%
6人以上	36	7%
無回答	2	0%
合計	516	100%

住宅

住居の形態	回答数	割合
一戸建て木造	367	71%
一戸建て鉄筋	22	4%
集合住宅木造	19	4%
集合住宅鉄筋	97	19%
不明・無回答	11	2%
合計	516	100%

延床面積	回答数	割合
30㎡以下	29	6%
31～59㎡	73	14%
60～89㎡	74	14%
90～119㎡	75	15%
120～149㎡	82	16%
150㎡以上	129	25%
不明・無回答	54	10%
合計	516	100%

住宅の築年数	回答数	割合
2年以内	20	4%
3～5年	54	10%
6～10年	68	13%
11～20年	135	26%
21～30年	117	23%
31年以上	111	22%
不明・無回答	11	2%
合計	516	100%

エネルギー 利用

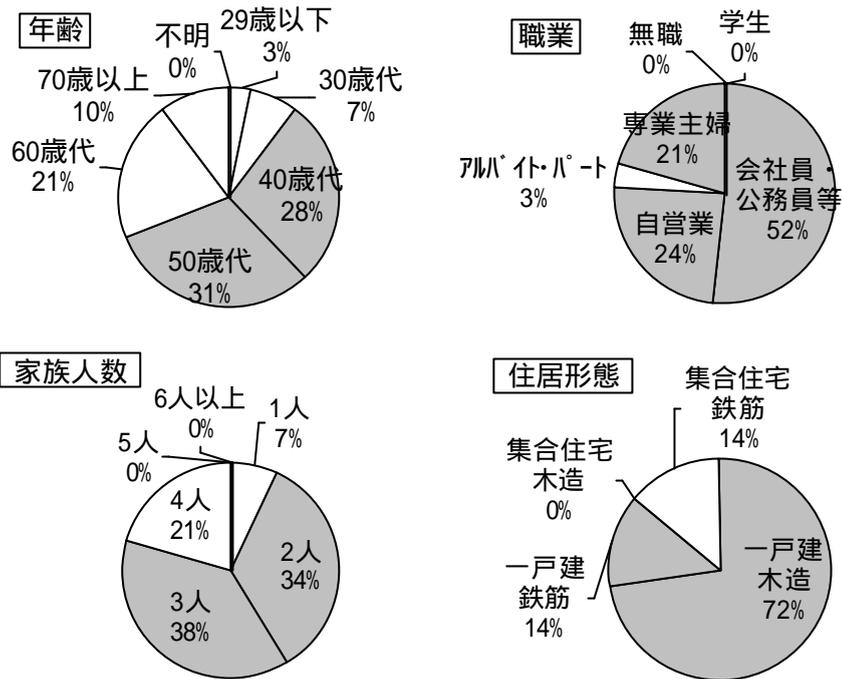
電力契約容量	回答数	割合
15A以下	16	3%
20A	42	8%
30A	132	26%
40A	46	9%
50A	116	22%
60A	75	15%
60A超	31	6%
不明・無回答	58	11%
合計	516	100%

使用燃料	回答数	割合
都市ガス	247	48%
L P ガス	225	44%
灯油	382	74%
対象回答数	516	100%

(用途)

(複数回答)	都市ガス		L P ガス		灯油	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
暖房用	19	8%	15	7%	329	86%
給湯用	152	62%	142	63%	145	38%
ガスコンロ	219	89%	203	90%	-	-
その他	11	4%	10	4%	9	2%
対象回答数	247	100%	225	100%	382	100%

〔先進的に省エネルギーへ取り組む市民の主な属性〕



問2 地球環境問題の関心について

	全 体		一般的な市民		先進的な市民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
非常に関心がある	114	22%	98	20%	16	55%
関心がある	308	60%	297	61%	11	38%
あまり関心がない	62	12%	61	13%	1	3%
関心がない	9	2%	9	2%	0	0%
わからない	16	3%	16	3%	0	0%
無回答	7	1%	6	1%	1	3%
合計	516	100%	487	100%	29	100%

問3 地球温暖化の内容について

	全 体		一般的な市民		先進的な市民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
よく知っている	140	27%	123	25%	17	59%
たいだい知っている	259	50%	251	52%	8	28%
聞いたことはあるが、内容はよく知らない	95	18%	92	19%	3	10%
わからない	15	3%	15	3%	0	0%
無回答	7	1%	6	1%	1	3%
合計	516	100%	487	100%	29	100%

問4 COP3での削減目標について

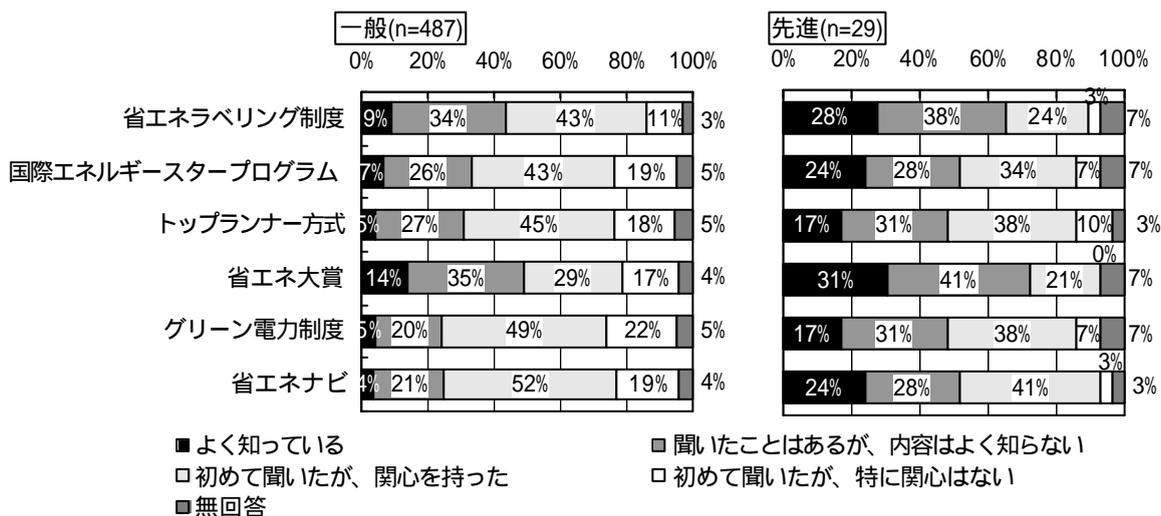
	全 体		一般的な市民		先進的な市民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
よく知っている	80	16%	64	13%	16	55%
たいだい知っている	219	42%	210	43%	9	31%
聞いたことはあるが、内容はよく知らない	171	33%	169	35%	2	7%
わからない	40	8%	39	8%	1	3%
無回答	6	1%	5	1%	1	3%
合計	516	100%	487	100%	29	100%

問5 個人の日常生活の中での省エネルギーへの考え

	全体		一般的な市民		先進的な市民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
日常生活の中で、多少不便になっても積極的に取り組む必要がある	109	21%	102	21%	7	24%
日常生活の中で、できることから取り組む必要がある	365	71%	346	71%	19	66%
個人の日常生活の中で取り組む必要はない	7	1%	7	1%	0	0%
わからない	24	5%	23	5%	1	3%
その他	3	1%	2	0%	1	3%
無回答	8	2%	7	1%	1	3%
合計	516	100%	487	100%	29	100%

問6 省エネルギーに関する制度や機器について

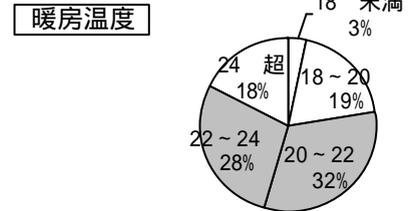
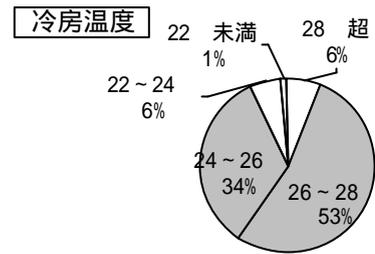
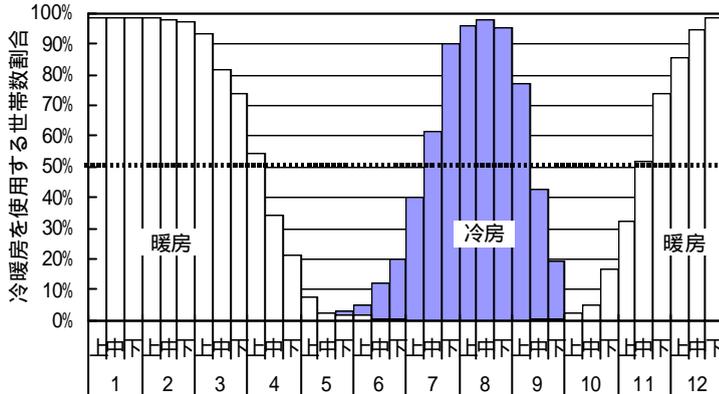
		よく知っている	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	初めて聞いたが、関心を持った	初めて聞いたが、特に関心はない	無回答	合計
	国際エネルギースタープログラム	41	137	220	93	25	516
	トップランナー方式	27	139	232	91	27	516
	省エネ大賞	77	184	149	83	23	516
	グリーン電力制度	28	105	252	107	24	516
	省エネナビ	27	111	265	92	21	516
一般的な市民	省エネラベリング制度	44	168	207	54	14	487
	国際エネルギースタープログラム	34	129	210	91	23	487
	トップランナー方式	22	130	221	88	26	487
	省エネ大賞	68	172	143	83	21	487
	グリーン電力制度	23	96	241	105	22	487
	省エネナビ	20	103	253	91	20	487
先進的な市民	省エネラベリング制度	8	11	7	1	2	29
	国際エネルギースタープログラム	7	8	10	2	2	29
	トップランナー方式	5	9	11	3	1	29
	省エネ大賞	9	12	6	0	2	29
	グリーン電力制度	5	9	11	2	2	29
	省エネナビ	7	8	12	1	1	29



問7 冷房・暖房機器の使用状況について

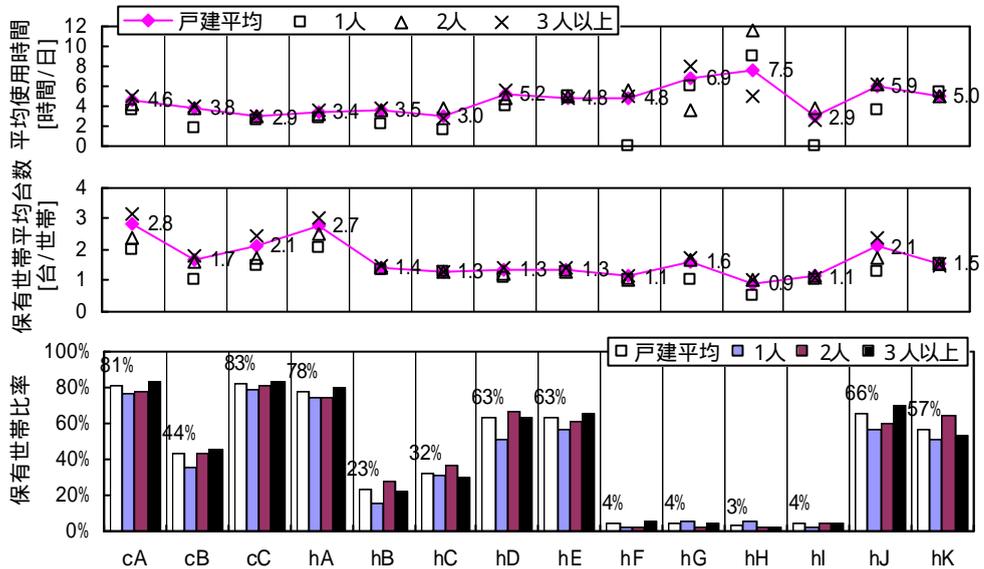
(1) 冷暖房の使用状況

冷暖房期間

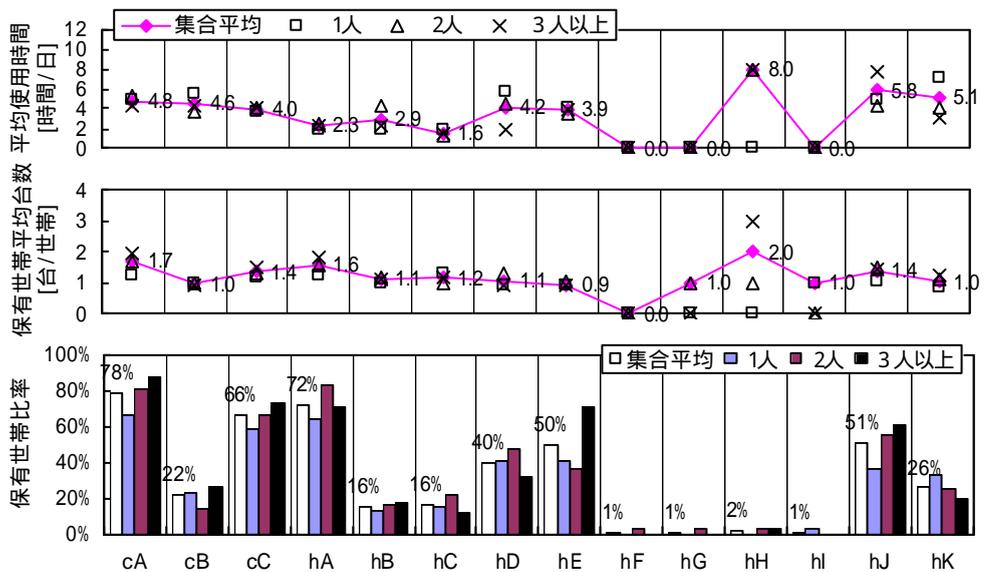


(2) 冷暖房機器の保有・使用状況

【戸建住宅】



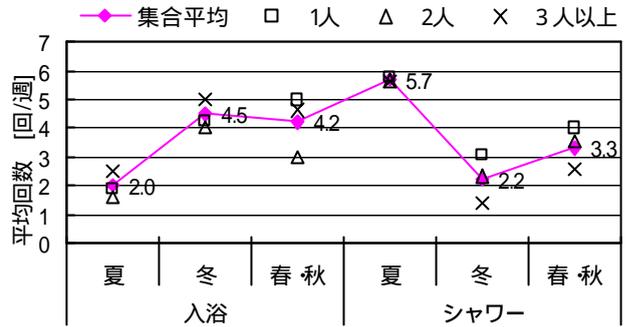
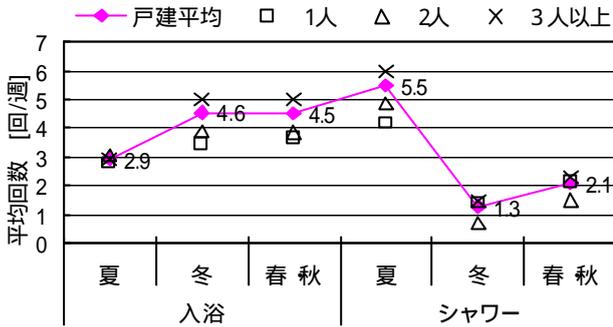
【集合住宅】



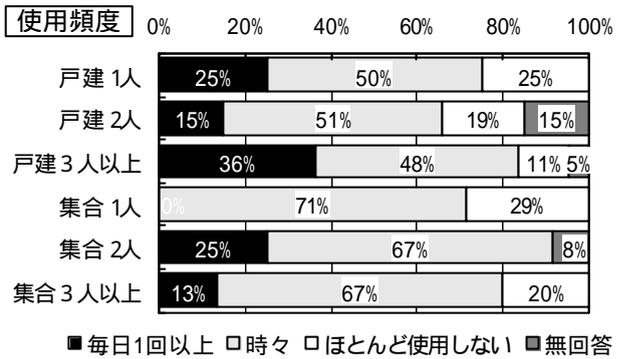
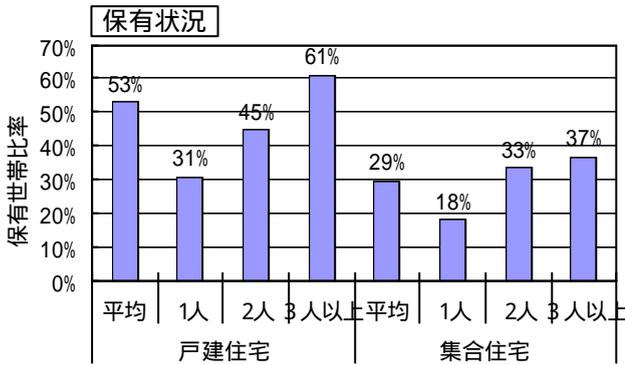
冷房機器	cA: エアコン (冷暖房兼用)	cB: エアコン (冷房専用)	cC: 扇風機		
暖房機器	hA: エアコン (冷暖房兼用)	hB: 電気ファンヒーター	hC: 電気ストーブ	hD: 電気こたつ	
	hE: 電気カーペット	hF: 床暖房 (電気式)	hG: 床暖房 (温水式)	hH: ガスファンヒーター	
	hI: ガスストーブ	hJ: 石油ファンヒーター	hK: 石油ストーブ		

問8 給湯・衛生機器の保有状況、使用状況

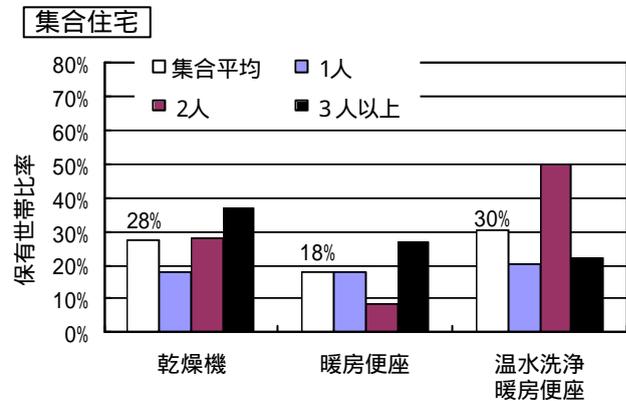
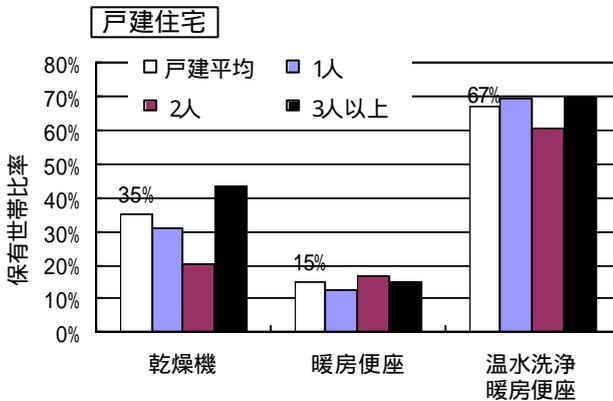
(1) 入浴・シャワーの回数



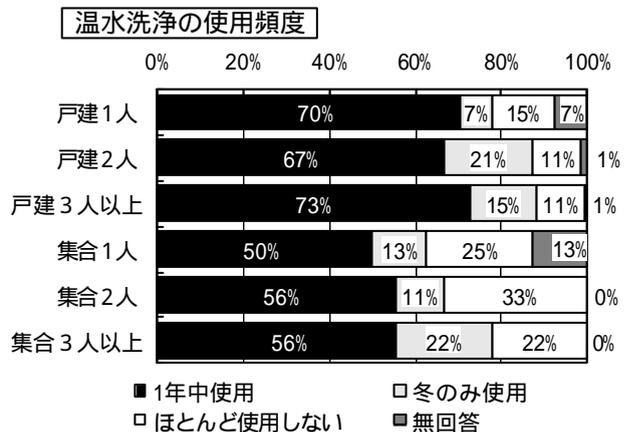
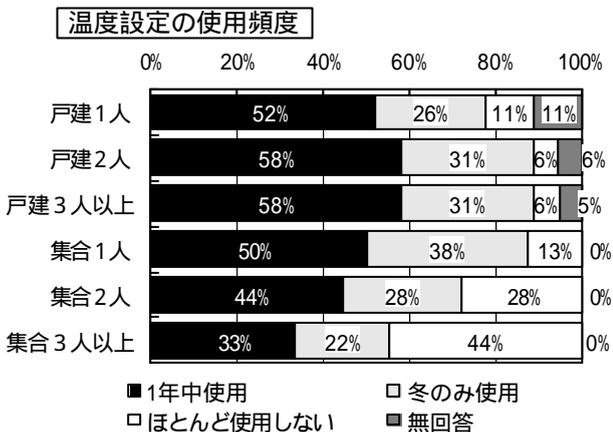
(2) 風呂の追い焚き機能の保有・使用状況



(3) 衛生関連機器の保有状況

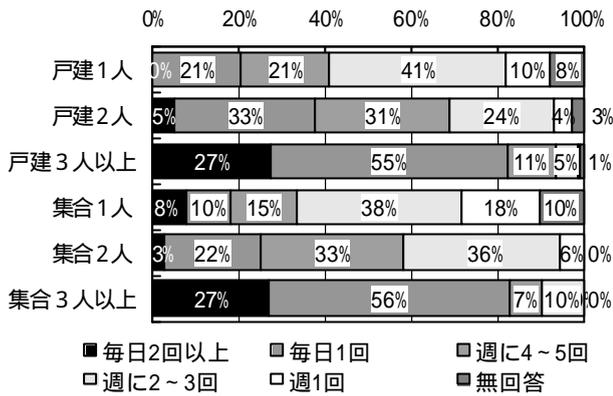


(4) 温水洗浄暖房便座の使用状況

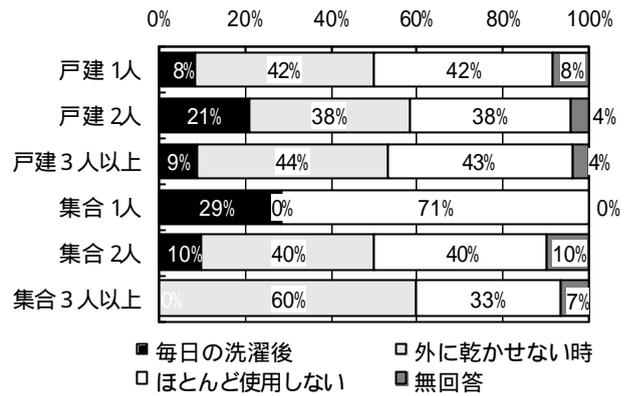


(5) 洗濯回数、乾燥機の使用頻度

洗濯回数



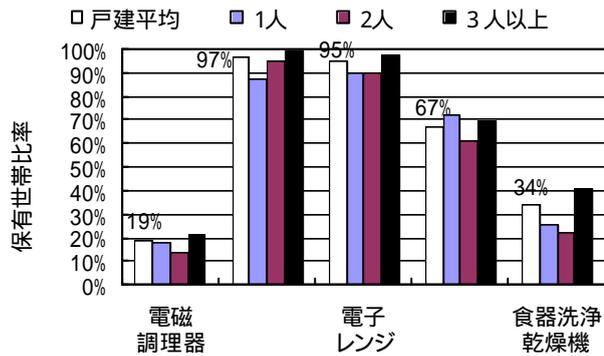
乾燥機の使用頻度



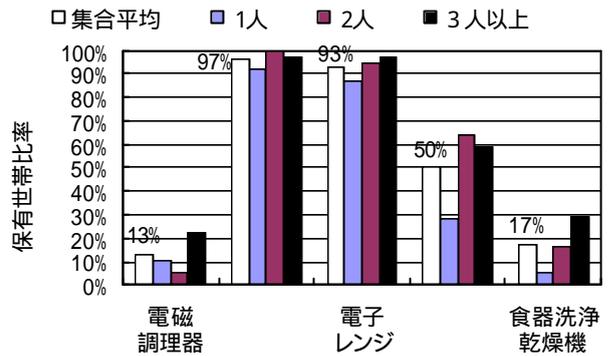
問9 調理機器の保有状況、使用状況

(1) 調理機器の保有状況

戸建住宅

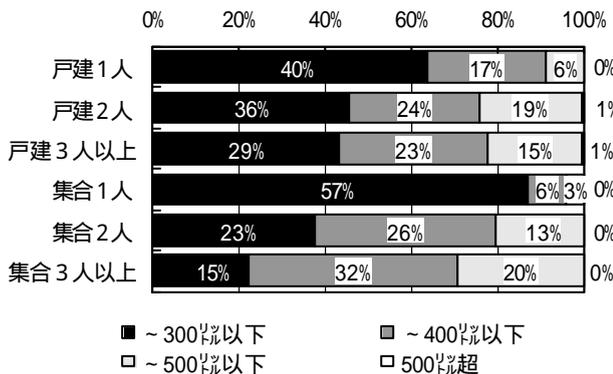


集合住宅

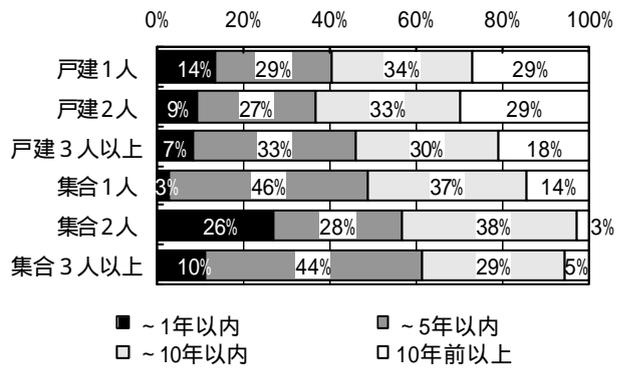


(2) 冷蔵庫の容量、購入時期

容量

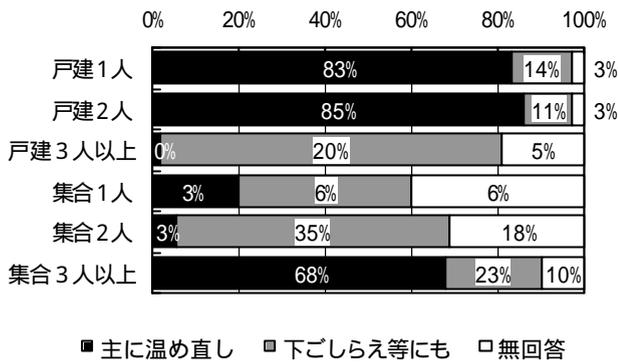


購入時期

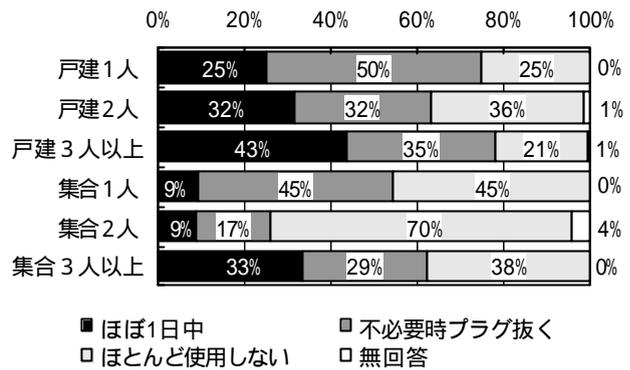


(3) 調理機器の使用状況

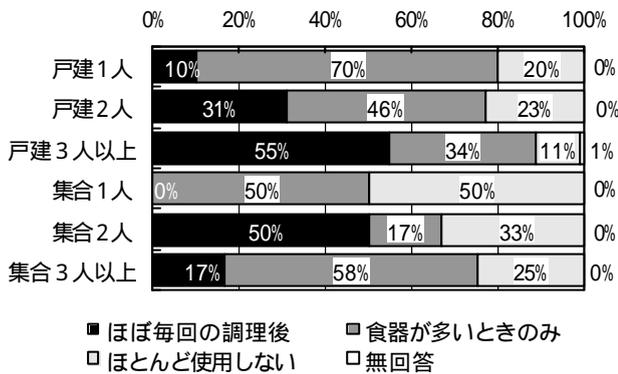
電子レンジの使用頻度



電気ポットの使用頻度

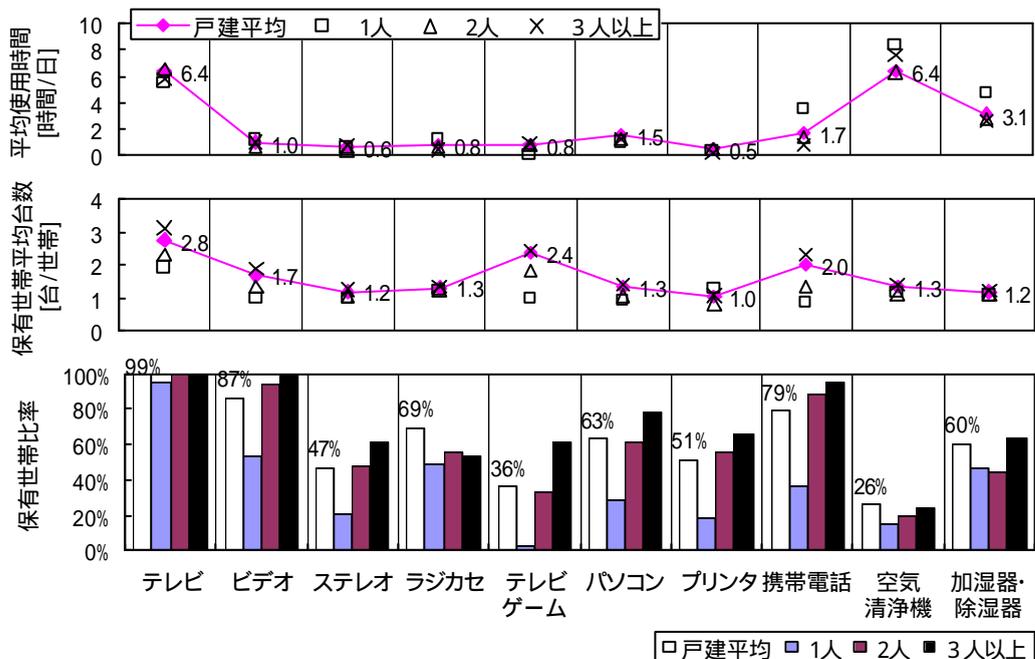


食器洗淨乾燥機の使用頻度

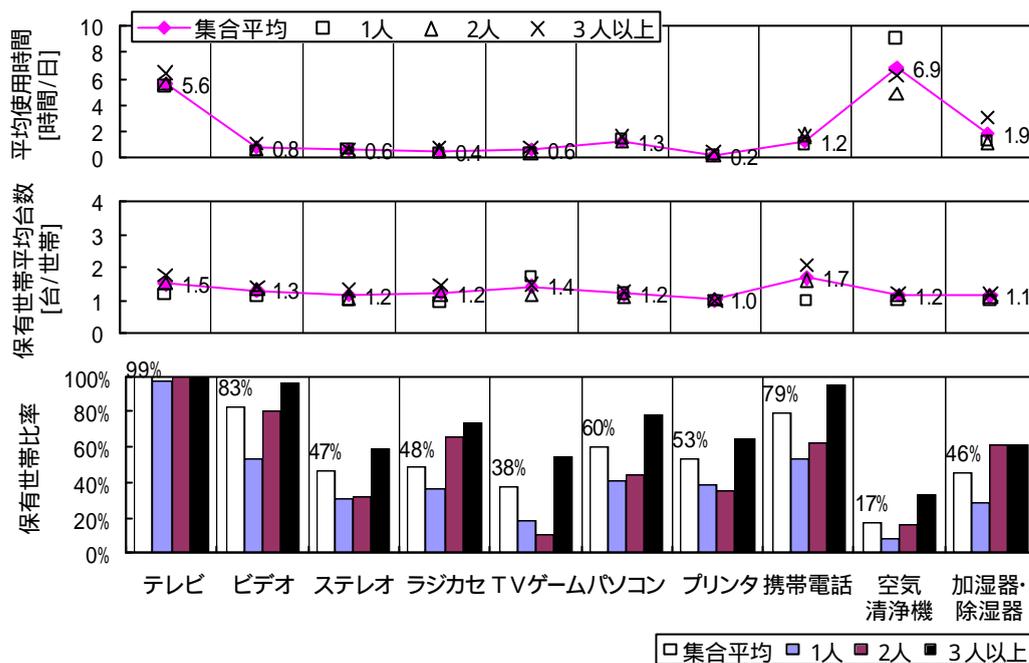


問10 家電機器の保有状況、使用状況

【戸建住宅】



【集合住宅】



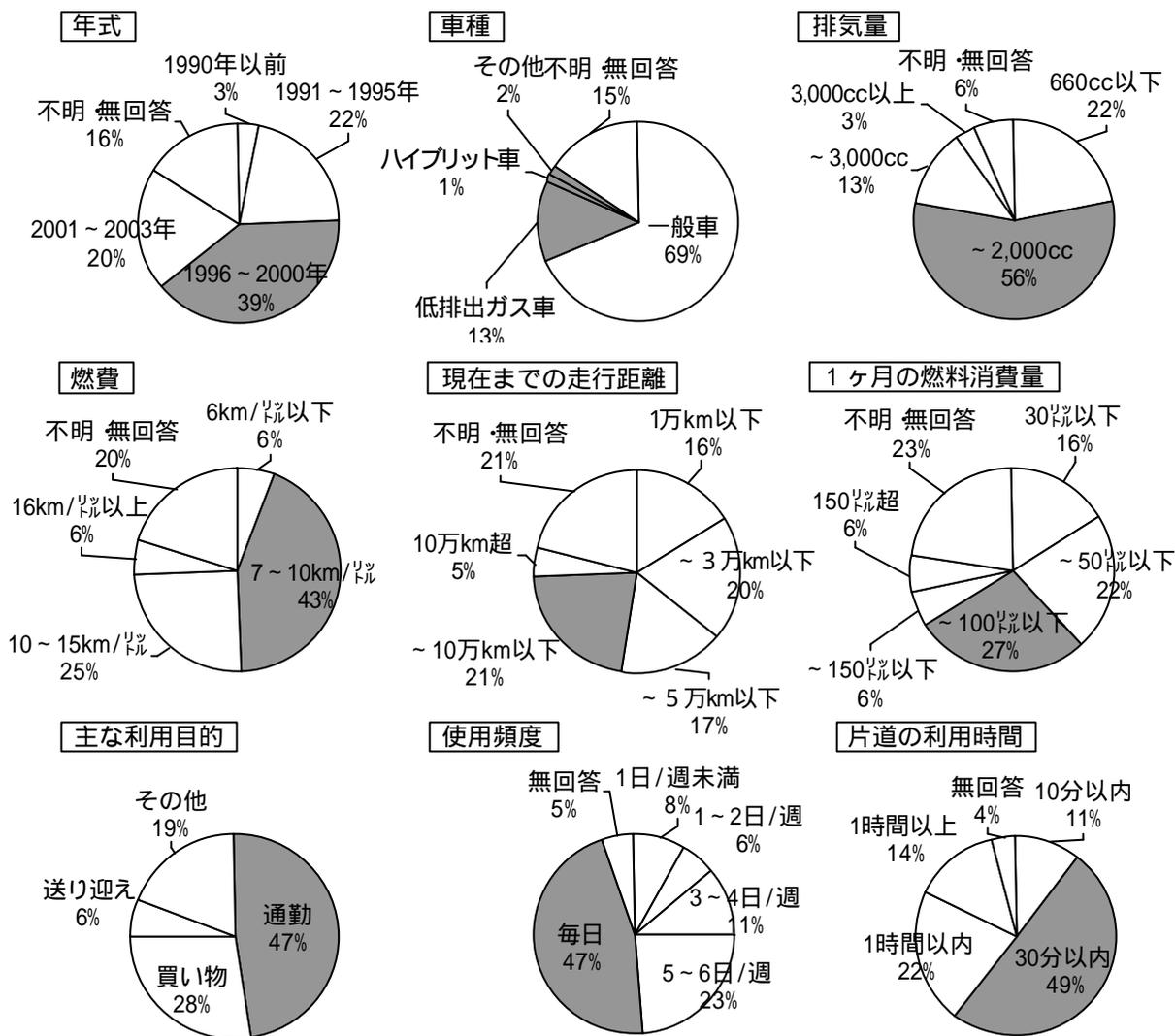
問11 自家用車の保有状況・使用状況

(1) 自動車の保有状況

	戸建1人		戸建2人		戸建3人以上		集合1人		集合2人		戸建3人以上	
	回答数	割合										
ない	19	49%	16	13%	7	3%	18	46%	5	14%	2	5%
ある	16	41%	101	85%	224	97%	20	51%	31	86%	39	95%
1台	15	(38%)	65	(55%)	47	(20%)	19	(49%)	19	(53%)	24	(59%)
2台	1	(3%)	34	(29%)	98	(42%)	0	(0%)	11	(31%)	12	(29%)
3台	0	(0%)	2	(2%)	55	(24%)	0	(0%)	1	(3%)	3	(7%)
4台以上	0	(0%)	0	(0%)	24	(10%)	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)
台数不明	0	(0%)	0	(0%)	0	(0%)	1	(3%)	0	(0%)	0	(0%)
無回答	4	10%	2	2%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
合計	39	100%	119	100%	231	100%	39	100%	36	100%	41	100%
総台数	17台		139台		510台		19台		44台		57台	
保有世帯の平均台数	1.1台/世帯		1.4台/世帯		2.3台/世帯		1.0台/世帯		1.4台/世帯		1.5台/世帯	

	類型不明		合計(全体)		戸建住宅平均		集合住宅平均	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ない	4	36%	71	14%	42	11%	25	22%
ある	5	45%	436	84%	341	88%	90	78%
1台	1	(9%)	190	(37%)	127	(33%)	62	(53%)
2台	2	(18%)	158	(31%)	133	(34%)	23	(20%)
3台	2	(18%)	63	(12%)	57	(15%)	4	(3%)
4台以上	0	(0%)	24	(5%)	24	(6%)	0	(0%)
台数不明	0	(0%)	1	(0%)	0	(0%)	1	(1%)
無回答	2	18%	9	2%	6	2%	1	1%
合計	11	100%	516	100%	389	100%	116	100%
総台数	11台		797台		666台		120台	
保有世帯の平均台数	2.2台/世帯		1.8台/世帯		2.0台/世帯		1.3台/世帯	

(2) 自動車の使用状況



問12 家庭での省エネルギーの取り組み状況

	全体		一般的な市民		先進的な市民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
日頃から省エネルギーを心がけている	184	36%	171	35%	13	45%
ときどき省エネルギーを実行している	225	44%	215	44%	10	34%
あまり省エネルギーを意識したことはない	75	15%	70	14%	5	17%
その他	5	1%	4	1%	1	3%
無回答	27	5%	27	6%	0	0%
合計	516	100%	487	100%	29	100%

問13 家庭における今後の省エネルギーの可能性

	全体		一般的な市民		先進的な市民	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
省エネルギーに取り組むことは可能である	286	55%	269	55%	17	59%
省エネルギーに取り組むことはむずかしい	30	6%	29	6%	1	3%
日頃から十分省エネルギーを実行しており、これ以上はむずかしい	56	11%	52	11%	4	14%
わからない	32	6%	30	6%	2	7%
その他	6	1%	6	1%	0	0%
無回答	106	21%	101	21%	5	17%
合計	516	100%	487	100%	29	100%

【省エネに必要なもの（省エネを可能とする回答者286件）】

	回答数	割合
省エネの具体的な方法を知りたい	129	45%
省エネの効果を知りたい	161	56%
省エネ機器などの情報を知りたい	123	43%
省エネ機器の購入などに補助が必要	98	34%
その他	5	2%

【難しい理由（省エネを難しいとする回答者30件）】

	回答数	割合
方法がわからない	5	17%
家族の同意が得られない	8	27%
省エネへの取り組みは面倒に思う	7	23%
省エネの必要性を感じない	1	3%
現在の生活スタイルを維持したい	9	30%
その他	0	0%

問14 住まいの省エネルギー対策の利用状況と関心

	利用している	今後利用したい	興味はある	必要ない	利用できない	わからない	無回答	合計
壁や天井への断熱材の利用	189	49	45	13	95	43	82	516
二重サッシやペアガラスなどの利用	109	71	76	24	128	30	78	516
底による日差しの制御	226	56	44	33	63	19	75	516
太陽熱利用給湯（ソーラーシステム）の利用	14	29	114	70	147	41	101	516
太陽光発電システムの利用	0	32	132	43	125	49	135	516

	利用している	今後利用したい	興味はある	必要ない	利用できない	わからない	無回答	合計
壁や天井への断熱材の利用	37%	9%	9%	3%	18%	8%	16%	100%
二重サッシやペアガラスなどの利用	21%	14%	15%	5%	25%	6%	15%	100%
ひさしによる日差しの制御	44%	11%	9%	6%	12%	4%	15%	100%
太陽熱利用給湯（ソーラーシステム）の利用	3%	6%	22%	14%	28%	8%	20%	100%
太陽光発電システムの利用	0%	6%	26%	8%	24%	9%	26%	100%

問15 省エネルギー行動の取り組み状況

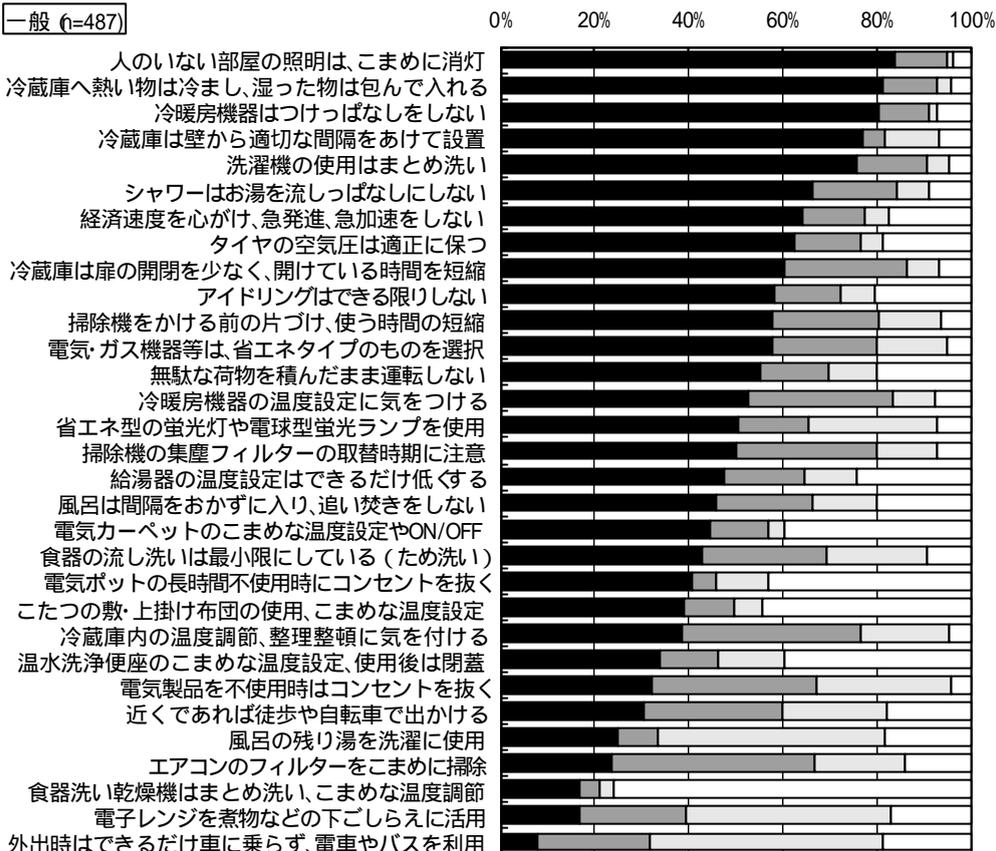
全体	はい	時々	いいえ	無し	無回答
冷暖房機器の温度設定に気をつけている	269	157	48	17	25
冷暖房機器はつけっぱなしをしないように気をつけている	413	55	10	13	25
エアコンはフィルターをこまめに掃除し、風量が低下しないようにしている	120	227	97	41	31
電気カーベットは部屋の広さや用途にあったものを選び、温度設定やON/OFFをこまめに調節している	229	63	18	140	66
こたつは敷布団と上掛け布団を使用し、温度設定をこまめに調節している	199	55	31	162	69
風呂は、間隔をおかずに入るようにして、追い焚きをしないようにしている	235	108	69	57	47
シャワーはお湯を流しっぱなしにしないように気をつけている	338	95	35	13	35
洗濯機の使用は、まとめて洗いを心がけている	389	75	27	2	23
風呂の残り湯を洗濯に有効に使用している	127	43	252	52	42
温水洗浄便座は温度設定をこまめに調節し、使わない時はふたを閉めるようにしている	176	64	75	139	62
掃除機をかける前に部屋を片づけ、掃除機を使う時間を短くするようにしている	293	121	68	7	27
掃除機の集塵フィルターの取替時期に注意し、風量が低下しないようにしている	257	154	68	4	33
食器洗い乾燥機を使用する時は、まとめて洗い、温度調節もこまめにしている	89	21	17	297	92
給湯器で洗いものを洗う時は、温度設定をできるだけ低くするようにしている	247	90	57	54	68
食器の流し洗いは最小限にしている（ため洗いを心がけている）	214	144	109		49
冷蔵庫の庫内は季節にあわせて温度調節をしたりものを詰め込みすぎないように整理整頓に気をつけている	197	195	97	6	21
冷蔵庫は壁から適切な間隔をあけて設置している	396	25	60	6	29
冷蔵庫の扉は開閉を少なくし、開けている時間を短くするように気をつけている	312	133	37	7	27
冷蔵庫に食品を入れる際は、熱い物は冷まし、湿った物はラップに包んで入れるようにしている	417	59	15	4	21
電子レンジを煮物などの下ごしらえに活用している	85	117	228	42	44
電気ポットは長時間使わない時には、コンセントからプラグを抜くようにしている	208	27	57	176	48
照明は、省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光灯を使用するようにしている	262	76	139		39
人のいない部屋の照明は、こまめな消灯に心がけている	431	56	7		22
アイドリングはできる限りしないように気をつけている	302	75	35	67	37
無駄な荷物を積んだまま運転しないように気をつけている	285	74	56	67	34
経済速度を心がけ、急発進、急加速をしないように気をつけている	335	67	25	67	22
タイヤの空気圧は適正に保つよう心がけている	323	76	22	67	28
外出時は、できるだけ車に乗らず、電車やバスなどの公共交通機関を利用するようにしている	40	125	256	67	28
近くであれば徒歩や自転車で行き、車の利用は控えている	156	157	112	67	24
電気製品は、使わない時はコンセントからプラグを抜き、待機時消費電力を少なくしている	166	179	148		23
電気、ガス、石油機器などを買う時は、省エネルギータイプのものを選んでいる	295	115	79		27

一般的な市民	はい	時々	いいえ	無し	無回答
冷暖房機器の温度設定に気をつけている	256	149	43	17	22
冷暖房機器はつけっぱなしをしないように気をつけている	390	52	9	13	23
エアコンはフィルターをこまめに掃除し、風量が低下しないようにしている	115	209	93	40	30
電気カーベットは部屋の広さや用途にあったものを選び、温度設定やON/OFFをこまめに調節している	217	59	18	132	61
こたつは敷布団と上掛け布団を使用し、温度設定をこまめに調節している	190	52	29	151	65
風呂は、間隔をおかずに入るようにして、追い焚きをしないようにしている	223	100	65	54	45
シャワーはお湯を流しっぱなしにしないように気をつけている	322	88	32	13	32
洗濯機の使用は、まとめ洗いを心がけている	368	72	24	1	22
風呂の残り湯を洗濯に有効に使用している	122	41	235	50	39
温水洗浄便座は温度設定をこまめに調節し、使わない時はふたを閉めるようにしている	165	59	69	135	59
掃除機をかける前に部屋を片づけ、掃除機を使う時間を短くするようにしている	280	111	64	7	25
掃除機の集塵フィルターの取替時期に注意し、風量が低下しないようにしている	243	145	64	4	31
食器洗い乾燥機を使用する時は、まとめて洗い、温度調節もこまめにしている	82	21	15	282	87
給湯器で洗いものをすすぐ時は、温度設定をできるだけ低くするようにしている	232	83	54	53	65
食器の流し洗いは最小限にしている（ため洗いを心がけている）	208	130	103		46
冷蔵庫の庫内は季節にあわせて温度調節をしたりものを詰め込みすぎないように整理整頓に気をつけている	188	184	91	6	18
冷蔵庫は壁から適切な間隔をあけて設置している	374	23	56	6	28
冷蔵庫の扉は開閉を少なくし、開けている時間を短くするように気をつけている	294	125	35	7	26
冷蔵庫に食品を入れる際は、熱い物は冷まし、湿った物はラップに包んで入れるようにしている	395	55	15	4	18
電子レンジを煮物などの下ごしらえに活用している	82	110	211	42	42
電気ポットは長時間使わない時には、コンセントからプラグを抜くようにしている	197	26	54	165	45
照明は、省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光灯を使用するようにしている	245	74	132		36
人のいない部屋の照明は、こまめな消灯に心がけている	408	53	7		19
アイドリングはできる限りしないように気をつけている	283	69	34	66	35
無駄な荷物を積んだまま運転しないように気をつけている	268	71	50	66	32
経済速度を心がけ、急発進、急加速をしないように気をつけている	313	64	24	66	20
タイヤの空気圧は適正に保つよう心がけている	303	70	22	66	26
外出時は、できるだけ車に乗らず、電車やバスなどの公共交通機関を利用するようにしている	38	117	240	66	26
近くであれば徒歩や自転車が出かけ、車の利用は控えている	148	144	107	66	22
電気製品は、使わない時はコンセントからプラグを抜き、待機時消費電力を少なくしている	157	170	138		22
電気、ガス、石油機器などを買う時は、省エネルギータイプのもを選んでいる	280	108	74		25

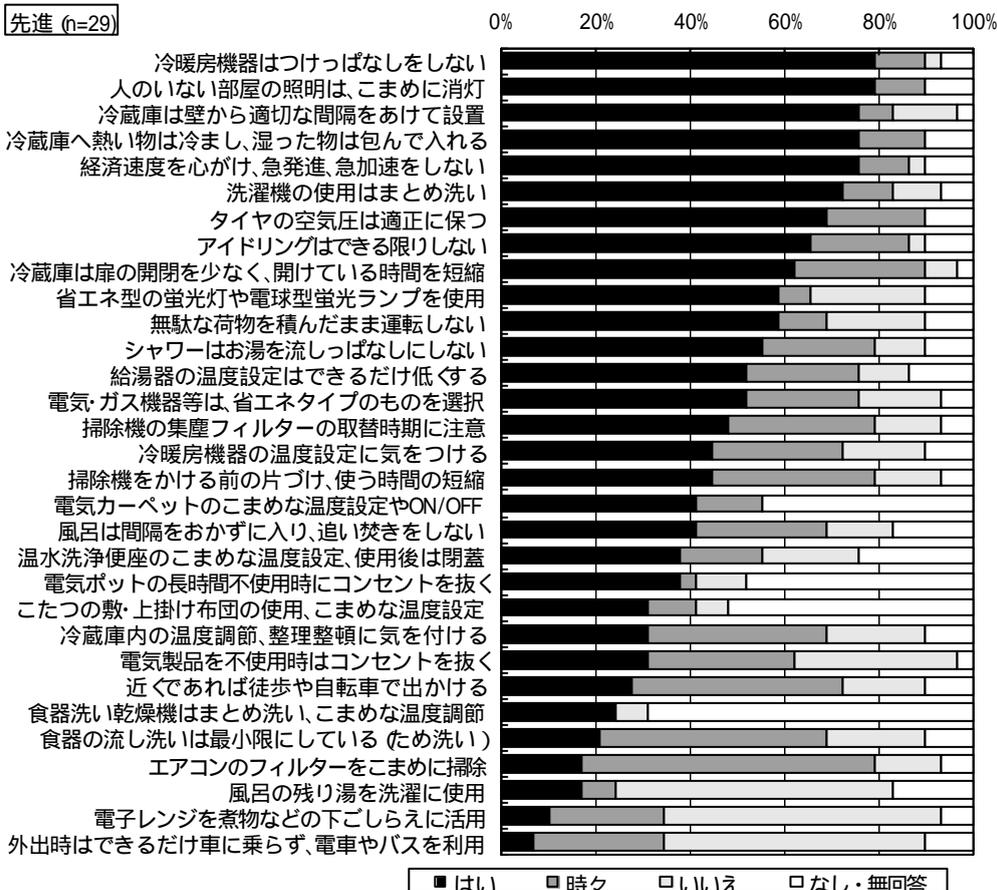
先進的に省エネルギーに取り組む市民	はい	時々	いいえ	無し	無回答
冷暖房機器の温度設定に気をつけている	13	8	5	0	3
冷暖房機器はつけっぱなしをしないように気をつけている	23	3	1	0	2
エアコンはフィルターをこまめに掃除し、風量が低下しないようにしている	5	18	4	1	1
電気カーベットは部屋の広さや用途にあったものを選び、温度設定やON/OFFをこまめに調節している	12	4	0	8	5
こたつは敷布団と上掛け布団を使用し、温度設定をこまめに調節している	9	3	2	11	4
風呂は、間隔をおかずに入るようにして、追い焚きをしないようにしている	12	8	4	3	2
シャワーはお湯を流しっぱなしにしないように気をつけている	16	7	3	0	3
洗濯機の使用は、まとめ洗いを心がけている	21	3	3	1	1
風呂の残り湯を洗濯に有効に使用している	5	2	17	2	3
温水洗浄便座は温度設定をこまめに調節し、使わない時はふたを閉めるようにしている	11	5	6	4	3
掃除機をかける前に部屋を片づけ、掃除機を使う時間を短くするようにしている	13	10	4	0	2
掃除機の集塵フィルターの取替時期に注意し、風量が低下しないようにしている	14	9	4	0	2
食器洗い乾燥機を使用する時は、まとめて洗い、温度調節もこまめにしている	7	0	2	15	5
給湯器で洗いものをすすぐ時は、温度設定をできるだけ低くするようにしている	15	7	3	1	3
食器の流し洗いは最小限にしている（ため洗いを心がけている）	6	14	6		3
冷蔵庫の庫内は季節にあわせて温度調節をしたりものを詰め込みすぎないように整理整頓に気をつけている	9	11	6	0	3
冷蔵庫は壁から適切な間隔をあけて設置している	22	2	4	0	1
冷蔵庫の扉は開閉を少なくし、開けている時間を短くするように気をつけている	18	8	2	0	1
冷蔵庫に食品を入れる際は、熱い物は冷まし、湿った物はラップに包んで入れるようにしている	22	4	0	0	3
電子レンジを煮物などの下ごしらえに活用している	3	7	17	0	2
電気ポットは長時間使わない時には、コンセントからプラグを抜くようにしている	11	1	3	11	3
照明は、省エネ型の蛍光灯や電球型蛍光灯を使用するようにしている	17	2	7		3
人のいない部屋の照明は、こまめな消灯に心がけている	23	3	0		3
アイドリングはできる限りしないように気をつけている	19	6	1	1	2
無駄な荷物を積んだまま運転しないように気をつけている	17	3	6	1	2
経済速度を心がけ、急発進、急加速をしないように気をつけている	22	3	1	1	2
タイヤの空気圧は適正に保つよう心がけている	20	6	0	1	2
外出時は、できるだけ車に乗らず、電車やバスなどの公共交通機関を利用するようにしている	2	8	16	1	2
近くであれば徒歩や自転車が出かけ、車の利用は控えている	8	13	5	1	2
電気製品は、使わない時はコンセントからプラグを抜き、待機時消費電力を少なくしている	9	9	10		1
電気、ガス、石油機器などを買う時は、省エネルギータイプのもを選んでいる	15	7	5		2

〔実施率の高い項目順〕

一般 (n=487)



先進 (n=29)



■ はい □ 時々 □ いいえ □ なし・無回答

問16 社会全体として省エネルギーを進めるために必要な取り組み

	全体		一般		先進的	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
国の法律などで、家庭での省エネルギーの取り組みを義務づける	95	18%	87	18%	8	28%
市の条例などで、家庭での省エネルギーの取り組みや省エネ型住宅の建設等を義務づける	120	23%	113	23%	7	24%
市の条例などで、自家用車の利用を規制する	74	14%	70	14%	4	14%
市が中心となって、家庭での省エネルギーの取り組みを指導する	226	44%	213	44%	13	45%
町内会やPTAなどが中心となって、地域の取り組みとして省エネルギーを進める	94	18%	83	17%	11	38%
それぞれの家庭が自発的に省エネルギーに取り組む	284	55%	268	55%	16	55%
個々の家庭まで省エネルギーに取り組む必要はない	7	1%	7	1%	0	0%
わからない	24	5%	24	5%	0	0%
その他	20	4%	19	4%	1	3%
無回答	0	0%	0	0%	0	0%
合計	516	100%	487	100%	29	100%

資料 1.3 事業者の回答結果

問 1 回答事業所の属性

区分	回答数	割合
一般的な事業所	485	86%
先進的な事業所	76	14%
合計	561	100%

経営体	回答数	割合
個人経営	20	4%
法人経営	509	91%
無回答	32	6%
合計	561	100%

営業日数・営業時間	回答数	割合
営業日数		
～250日以内	128	23%
～300日以内	250	45%
～350日以内	35	6%
～365日	114	20%
無回答	34	6%
合計	561	100%

事業所形態	回答数	割合
店舗・飲食店	95	17%
事務所・営業所	298	53%
工場・作業所	50	9%
輸送・配送センター・車庫	3	1%
倉庫・油槽所	0	0%
その他	52	9%
複数回答	55	10%
無回答	8	1%
合計	561	100%

延床面積	回答数	割合
～50㎡以下	16	3%
～100㎡以下	44	8%
～300㎡以下	88	16%
～500㎡以下	58	10%
～1,000㎡以下	85	15%
～3,000㎡以下	103	18%
3,000㎡超	83	15%
無回答	84	15%
合計	561	100%

従業員数	回答数	割合
1～4人	49	9%
5～9人	62	11%
10～29人	153	27%
30～99人	198	35%
100～199人	49	9%
200～299人	21	4%
300～999人	22	4%
1,000人以上	2	0%
無回答	5	1%
合計	561	100%

業種	回答数	割合
農林漁業	0	0%
建設業	78	14%
製造業	72	13%
電気・ガス・水道業	3	1%
運輸・通信業	21	4%
卸売業	59	11%
小売業	54	10%
飲食店	29	5%
金融・保険業	14	2%
不動産業	11	2%
サービス業	140	25%
その他(複数回答・不明含む)	80	14%
合計	561	100%

営業時間	回答数	割合
～8時間	94	17%
～12時間	365	65%
～24時間	63	11%
無回答	39	7%
合計	561	100%

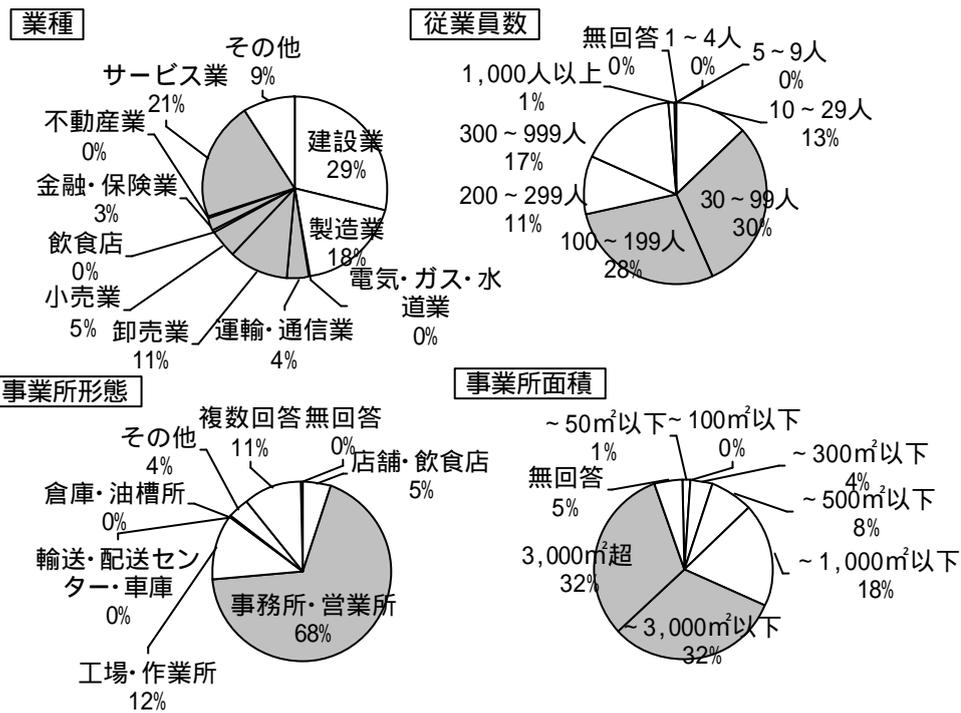
建物所有形態	回答数	割合
賃貸(建物全体)	54	10%
賃貸(建物一部)	100	18%
自社保有	389	69%
複数回答	11	2%
無回答	7	1%
合計	561	100%

築年数	回答数	割合
2年以内	15	3%
2～5年以内	25	4%
6～10年以内	89	16%
11～20年以内	161	29%
21～30年以内	119	21%
31年以上	82	15%
無回答	70	12%
合計	561	100%

使用しているエネルギー (複数回答)	回答数	割合
電気	542	97%
都市ガス	231	41%
LPGガス	190	34%
A重油	91	16%
B重油	6	1%
C重油	5	1%
灯油	243	43%
軽油	24	4%
ガスリン		0%
合計	-	-

(電力契約種別)	回答数	割合
従量電灯	175	32%
業務用電力	279	51%
その他	54	10%
合計(電気を使用する事業所)	542	100%

〔先進的に省エネルギーへ取り組む事業所の主な属性〕



問2 業務用車両の保有状況・使用状況

(1) 業種別の自動車保有状況

業務用車両の保有事業所数

	建設業	製造業	電気業等	運輸・通信業	卸売業	小売業	飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	その他	合計
自動車保有あり	77	66	3	20	55	50	25	12	8	125	72	513
自動車保有なし	1	6	0	1	4	4	4	2	3	15	8	48
合計	78	72	3	21	59	54	29	14	11	140	80	561

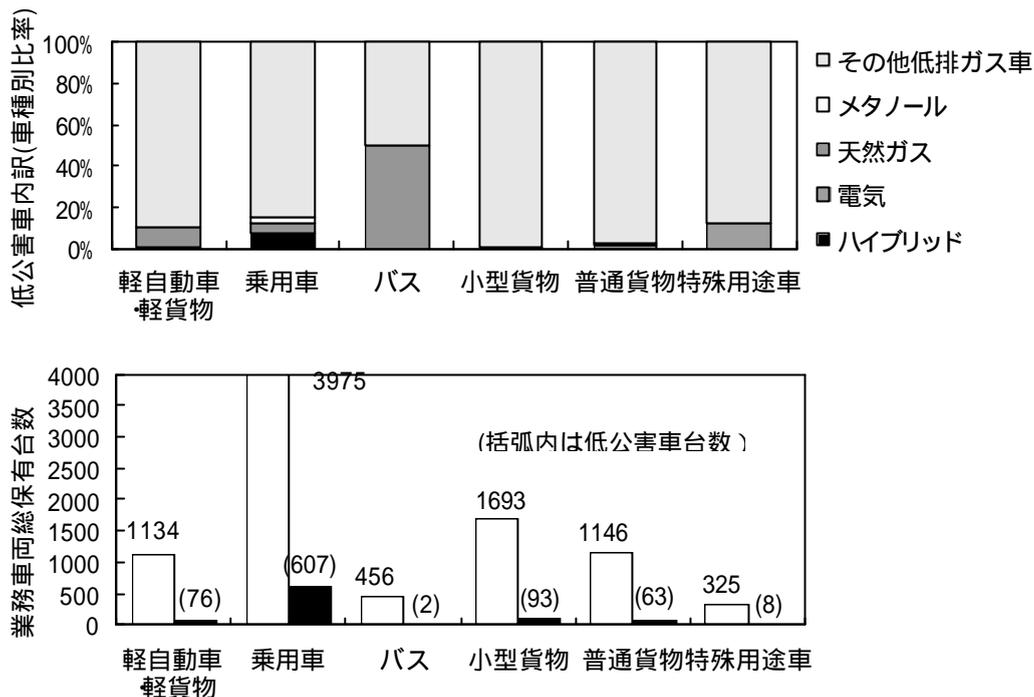
	建設業	製造業	電気業等	運輸・通信業	卸売業	小売業	飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	その他	合計
自動車保有あり	99%	92%	100%	95%	93%	93%	86%	86%	73%	89%	90%	91%
自動車保有なし	1%	8%	0%	5%	7%	7%	14%	14%	27%	11%	10%	9%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

車種別・保有台数

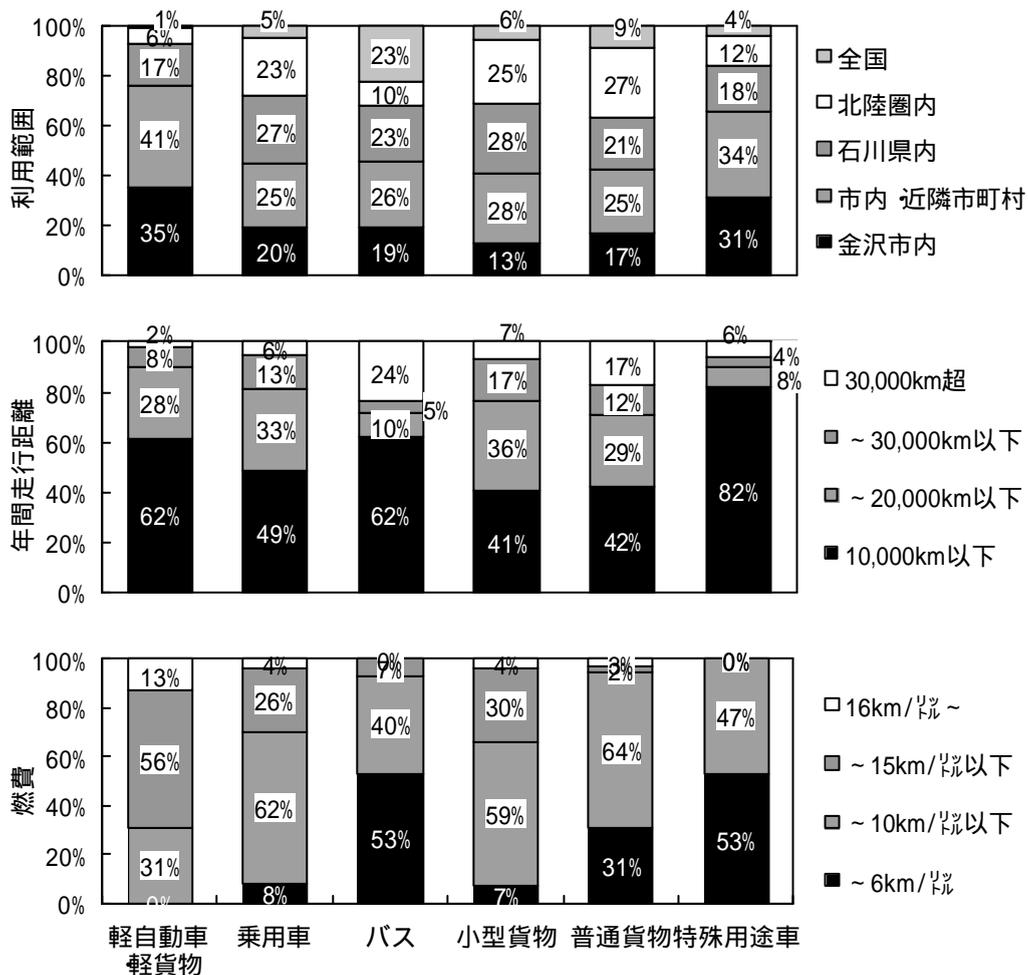
車種別平均台数	建設業	製造業	電気業等	運輸・通信業	卸売業	小売業	飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	その他	合計
軽自動車	2.3	1.4	1.0	0.6	3.9	2.4	0.5	1.5	0.5	2.0	1.9	2.0
乗用車	6.9	6.5	1.0	19.9	10.4	5.7	1.1	11.7	4.9	6.0	6.8	7.1
バス	0.0	0.0	0.0	19.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.8
小型貨物	4.3	2.3	0.0	1.6	12.0	2.3	0.0	0.4	0.0	1.5	1.4	3.0
普通貨物	1.4	0.7	0.7	13.7	7.8	0.5	0.1	0.0	0.0	0.8	1.2	2.0
特種用途車	0.5	0.5	0.7	0.8	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	0.6	0.6
合計	15.4	11.3	3.3	56.0	34.8	11.0	1.8	13.6	5.5	11.5	12.0	15.6

車種別保有台数比率	建設業	製造業	電気業等	運輸・通信業	卸売業	小売業	飲食店	金融・保険業	不動産業	サービス業	その他	合計
軽自動車	15%	12%	30%	1%	11%	21%	29%	11%	8%	18%	16%	13%
乗用車	45%	57%	30%	36%	30%	52%	60%	86%	90%	52%	57%	46%
バス	0%	0%	0%	35%	0%	0%	4%	0%	2%	2%	1%	5%
小型貨物	28%	20%	0%	3%	34%	21%	0%	3%	0%	13%	11%	19%
普通貨物	9%	6%	20%	24%	23%	4%	8%	0%	0%	7%	10%	13%
特種用途車	3%	5%	20%	1%	2%	1%	0%	0%	0%	8%	5%	4%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

(2) 低公害車の普及状況



(3) 車種別の自動車利用状況



問3 地球環境問題の関心について

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
非常に関心がある	118	21%	93	19%	25	33%
関心がある	384	68%	334	69%	50	66%
あまり関心がない	45	8%	44	9%	1	1%
関心がない	1	0%	1	0%	0	0%
わからない	9	2%	9	2%	0	0%
無回答	4	1%	4	1%	0	0%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問4 地球温暖化の内容について

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
よく知っている	170	30%	127	26%	43	57%
たいだい知っている	299	53%	266	55%	33	43%
聞いたことはあるが、内容はよく知らない	83	15%	83	17%	0	0%
わからない	6	1%	6	1%	0	0%
無回答	3	1%	3	1%	0	0%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問5 COP3での削減目標について

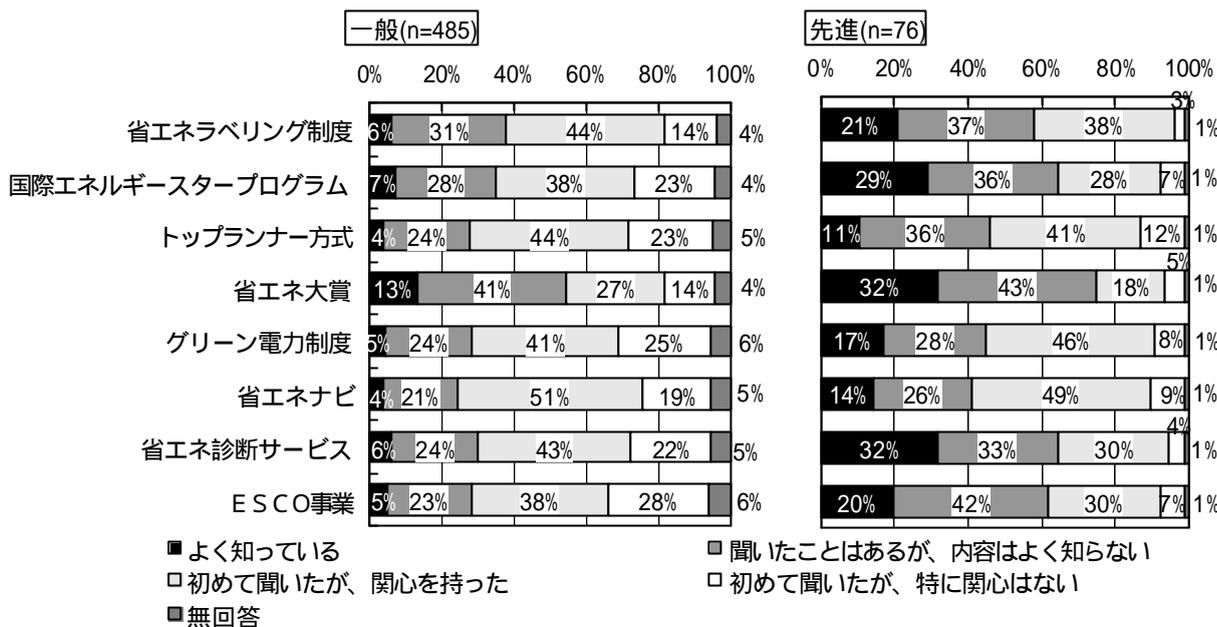
	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
よく知っている	88	16%	60	12%	28	37%
たいだい知っている	275	49%	231	48%	44	58%
聞いたことはあるが、内容はよく知らない	179	32%	175	36%	4	5%
わからない	16	3%	16	3%	0	0%
無回答	3	1%	3	1%	0	0%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問6 地球温暖化防止実行計画の策定状況

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
既に地球温暖化防止実行計画を策定している	58	10%	18	4%	40	53%
よく知っており、今後計画の策定を検討したい	93	17%	72	15%	21	28%
知っていたが、今後とも計画を策定する予定はない	104	19%	100	21%	4	5%
聞いたことはあるが、内容はよく知らない	234	42%	225	46%	9	12%
わからない	66	12%	65	13%	1	1%
無回答	3	1%	3	1%	0	0%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問7 省エネルギーに関する制度・機器について

		省エネラベリング制度	国際エネルギースタープログラム	トップランナー方式	省エネ大賞	省エネ診断サービス	ESCO事業	グリーン電力制度	省エネナビ
全体	よく知っている	46	57	27	88	54	39	35	29
	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	180	162	144	234	140	145	137	120
	初めて聞いたが、関心を持った	243	206	243	147	230	206	232	285
	初めて聞いたが、特に関心はない	72	115	122	71	110	141	129	101
	無回答	20	21	25	21	27	30	28	26
	合計	561	561	561	561	561	561	561	561
一般的な事業者	よく知っている	30	35	19	64	30	24	22	18
	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	152	135	117	201	115	113	116	100
	初めて聞いたが、関心を持った	214	185	212	133	207	183	197	248
	初めて聞いたが、特に関心はない	70	110	113	67	107	136	123	94
	無回答	19	20	24	20	26	29	27	25
	合計	485	485	485	485	485	485	485	485
先進的な事業者	よく知っている	16	22	8	24	24	15	13	11
	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	28	27	27	33	25	32	21	20
	初めて聞いたが、関心を持った	29	21	31	14	23	23	35	37
	初めて聞いたが、特に関心はない	2	5	9	4	3	5	6	7
	無回答	1	1	1	1	1	1	1	1
	合計	76	76	76	76	76	76	76	76



問8 省エネルギー関連の支援制度について

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
よく知っており、その内容についても理解している	12	2%	7	1%	5	7%
多少知っているものもある	117	21%	81	17%	36	47%
聞いたことはあるが、内容までは知らない	211	38%	190	39%	21	28%
これまで知らなかったが、資料を読んで興味を持った	98	17%	87	18%	11	14%
これまで知らなかったが、資料を読んでも関心が持てない	41	7%	38	8%	3	4%
わからない	68	12%	68	14%	0	0%
その他	1	0%	1	0%	0	0%
無回答	13	2%	13	3%	0	0%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問9 ISO14001の認証取得について

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
ISO14001認証取得、認証取得予定	99	18%	56	12%	43	57%
補助制度等が整備されれば検討したい	202	36%	179	37%	23	30%
検討する考えはない	171	30%	165	34%	6	8%
無回答	89	16%	85	18%	4	5%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

省エネ計画・目標の策定状況

<ISO取得又は取得予定との回答者を対象>

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
省エネの数値目標を設定している	43	43%	17	30%	26	60%
省エネ計画等はあるが、数値目標は未設定	15	15%	10	18%	5	12%
省エネ関連の方針・計画は定めていない	16	16%	14	25%	2	5%
その他	3	3%	1	2%	2	5%
無回答	22	22%	14	25%	8	19%
合計	99	100%	56	100%	43	100%

問10 環境活動評価プログラムについて

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
活用している	31	6%	14	3%	17	22%
今後活用したい	187	33%	159	33%	28	37%
特に関心はない	256	46%	238	49%	18	24%
その他	37	7%	29	6%	8	11%
無回答	50	9%	45	9%	5	7%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問11 エネルギーに関する担当部局・担当者の有無

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
専任の部局・担当者が管理を行っている	28	5%	19	4%	9	12%
兼任の担当者が管理を行っている	102	18%	54	11%	48	63%
その都度適当と考えられる部局が対応している	72	13%	63	13%	9	12%
特に設けていない	335	60%	326	67%	9	12%
その他	6	1%	5	1%	1	1%
無回答	18	3%	18	4%	0	0%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問12 エネルギー使用量の把握状況

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
エネルギーの使用用途別に記録してチェックしている	59	11%	31	6%	28	37%
月々の光熱水費を記録してチェックしている	178	32%	147	30%	31	41%
記録はしているが、特にチェックはしていない	114	20%	105	22%	9	12%
特に記録していない	189	34%	184	38%	5	7%
その他	4	1%	3	1%	1	1%
無回答	17	3%	15	3%	2	3%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

問13 省エネルギーや環境保全活動への取り組み

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
今後、企業として積極的に取り組むべきである	392	70%	317	65%	75	99%
特に取り組む必要はない	16	3%	16	3%	0	0%
わからない	80	14%	79	16%	1	1%
その他	6	1%	6	1%	0	0%
無回答	67	12%	67	14%	0	0%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

省エネに取り組むべきとする理由

(複数回答)	回答数	割合
環境への配慮は社会的要請であり、必要不可欠	309	79%
企業・事業所のイメージ向上のため	133	34%
コスト削減のため	283	72%
その他	2	0%
対象(積極的に取り組むべきとする事業所数)	392	-

問14 今後の省エネルギーの可能性

	全 体		一般的な事業所		先進的な事業所	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
省エネルギーに取り組むことは可能である	194	35%	148	31%	46	61%
省エネルギーは可能だが、実践はむずかしい	141	25%	127	26%	14	18%
現在、省エネルギー対策を十分に実行しており、これ以上はむずかしい	37	7%	29	6%	8	11%
わからない	76	14%	76	16%	0	0%
その他	9	2%	6	1%	3	4%
無回答	104	19%	99	20%	5	7%
合計	561	100%	485	100%	76	100%

省エネへの取り組みに当たって必要と思うもの

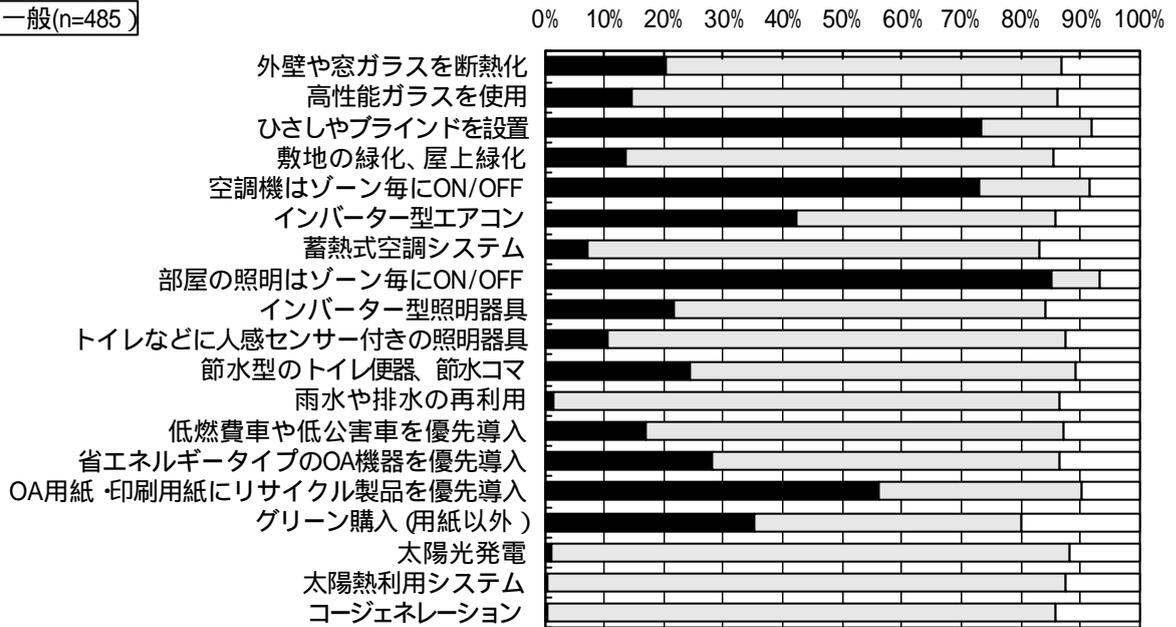
(複数回答)	回答数	割合
省エネの具体的な方法を知りたい	143	74%
省エネの効果を知りたい	118	61%
省エネ機器・設備などの情報を知りたい	115	59%
省エネ機器の購入などに補助が必要	103	53%
その他	8	4%
対象(省エネが可能とする事業所数)	194	-

省エネへの取り組みがむずかしい理由

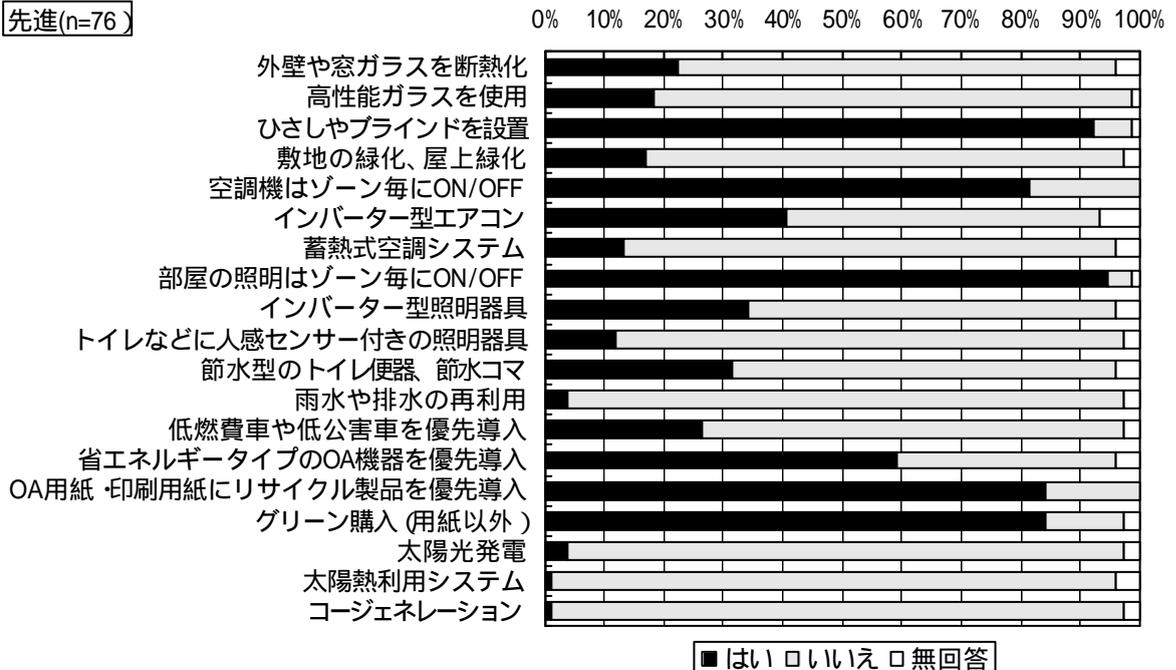
	回答数	割合
関連する情報や知識が不足している	95	67%
人員が不足している	77	55%
費用が高い	69	49%
効果を把握することがむずかしい	72	51%
作業効率が低下する	16	11%
その他	2	1%
対象(実践は難しいとする事業所数)	141	-

問15 建物や設備等の省エネルギー対策の取り組み

一般(n=485)



先進(n=76)



全体	はい	いいえ	無回答	合計
外壁や窓ガラスに断熱性の高いものを使用している	116	378	67	561
窓ガラスにペアガラスや熱線反射ガラスなどを採用している	85	408	68	561
窓にひさしやブラインドを取り付けて日射をコントロールしている	426	95	40	561
敷地や建物の屋上を緑化している	79	409	73	561
空調機はゾーン毎にON/OFFができる	416	104	41	561
インバーター型エアコンを採用している	236	252	73	561
蓄熱式空調システムを採用している	45	431	85	561
部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる	485	43	33	561
インバーター型照明器具を採用している	132	350	79	561
トイレなどに人感センサー付きの照明器具(自動消灯機能付きの照明器具)を採用している	60	438	63	561
節水型のトイレ便器や節水コマを使用している	143	363	55	561
雨水や排水を再利用している	11	483	67	561
低燃費車や低公害車を優先的に購入・使用している	102	395	64	561
省エネルギーラベルのついた省エネルギータイプのOA機器を優先的に採用している	182	311	68	561
OA用紙・印刷用紙にリサイクル製品を優先的に採用している	336	178	47	561
その他、グリーン購入している製品がある	234	229	98	561
太陽光発電を導入している	8	494	59	561
太陽熱利用システムを導入している	4	494	63	561
コージェネレーションを導入している	3	488	70	561

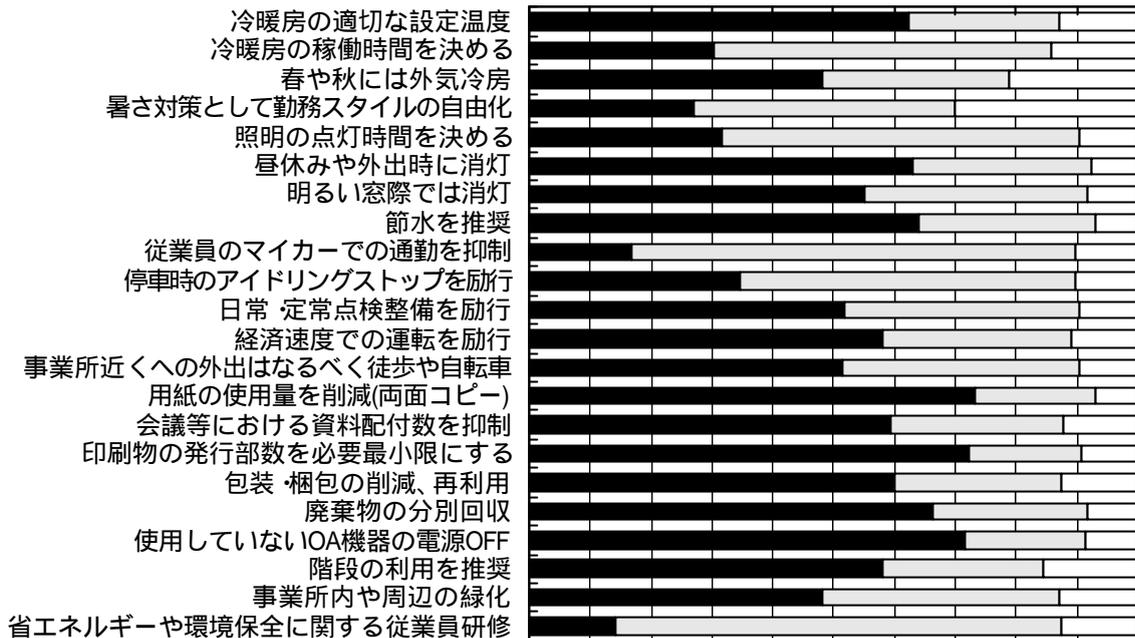
一般的な事業所	はい	いいえ	無回答	合計
外壁や窓ガラスに断熱性の高いものを使用している	99	322	64	485
窓ガラスにペアガラスや熱線反射ガラスなどを採用している	71	347	67	485
窓にひさしやブラインドを取り付けて日射をコントロールしている	356	90	39	485
敷地や建物の屋上を緑化している	66	348	71	485
空調機はゾーン毎にON/OFFができる	354	90	41	485
インバーター型エアコンを採用している	205	212	68	485
蓄熱式空調システムを採用している	35	368	82	485
部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる	413	40	32	485
インバーター型照明器具を採用している	106	303	76	485
トイレなどに人感センサー付きの照明器具(自動消灯機能付きの照明器具)を採用している	51	373	61	485
節水型のトイレ便器や節水コマを使用している	119	314	52	485
雨水や排水を再利用している	8	412	65	485
低燃費車や低公害車を優先的に購入・使用している	82	341	62	485
省エネルギーラベルのついた省エネルギータイプのOA機器を優先的に採用している	137	283	65	485
OA用紙・印刷用紙にリサイクル製品を優先的に採用している	272	166	47	485
その他、グリーン購入している製品がある	170	219	96	485
太陽光発電を導入している	5	423	57	485
太陽熱利用システムを導入している	3	422	60	485
コージェネレーションを導入している	2	415	68	485

先進的な事業所	はい	いいえ	無回答	合計
外壁や窓ガラスに断熱性の高いものを使用している	17	56	3	76
窓ガラスにペアガラスや熱線反射ガラスなどを採用している	14	61	1	76
窓にひさしやブラインドを取り付けて日射をコントロールしている	70	5	1	76
敷地や建物の屋上を緑化している	13	61	2	76
空調機はゾーン毎にON/OFFができる	62	14	0	76
インバーター型エアコンを採用している	31	40	5	76
蓄熱式空調システムを採用している	10	63	3	76
部屋の照明はゾーン毎にON/OFFができる	72	3	1	76
インバーター型照明器具を採用している	26	47	3	76
トイレなどに人感センサー付きの照明器具(自動消灯機能付きの照明器具)を採用している	9	65	2	76
節水型のトイレ便器や節水コマを使用している	24	49	3	76
雨水や排水を再利用している	3	71	2	76
低燃費車や低公害車を優先的に購入・使用している	20	54	2	76
省エネルギーラベルのついた省エネルギータイプのOA機器を優先的に採用している	45	28	3	76
OA用紙・印刷用紙にリサイクル製品を優先的に採用している	64	12	0	76
その他、グリーン購入している製品がある	64	10	2	76
太陽光発電を導入している	3	71	2	76
太陽熱利用システムを導入している	1	72	3	76
コージェネレーションを導入している	1	73	2	76

問16 省エネルギー・環境保全行動の取り組み

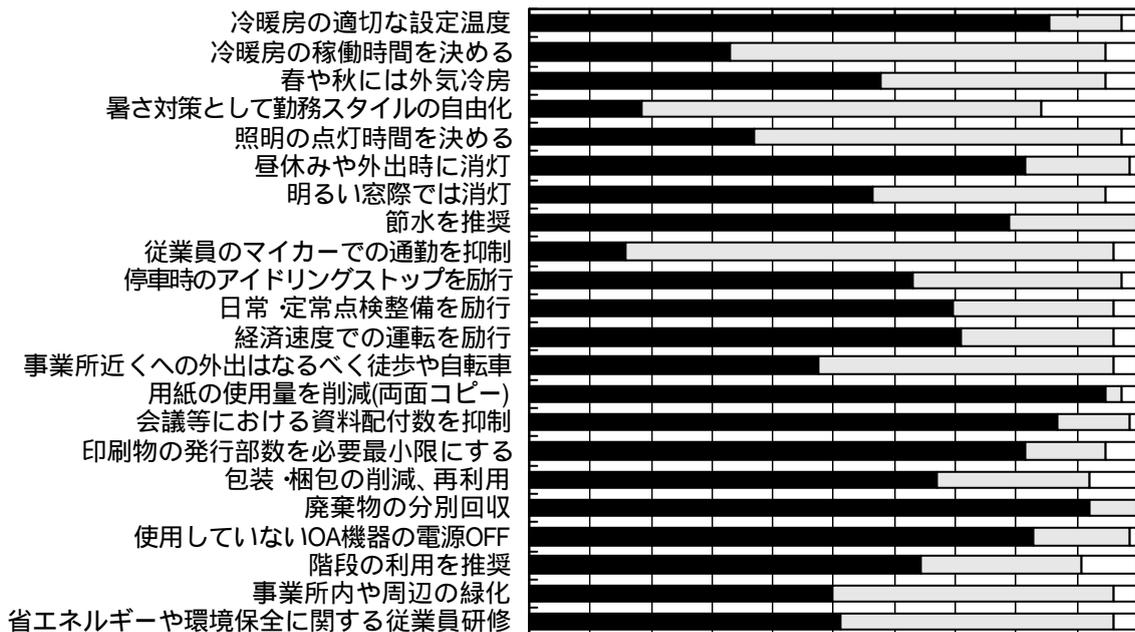
一般(n=485)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



先進(n=76)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ はい □ いいえ □ 無回答

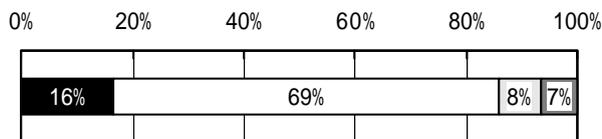
全体	はい	いいえ	無回答	合計
冷暖房の適切な設定温度を決めている	367	129	65	561
冷暖房の稼働時間を決めている（残業時間帯にはOFFにするなど）	172	316	73	561
春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている	277	177	107	561
暑さ対策として勤務スタイル（服装）の自由化などを認めている	145	259	157	561
照明の点灯時間を決めている	181	331	49	561
昼休みや外出時に消灯している	367	156	38	561
明るい窓際では消灯に心がけている	311	206	44	561
節水を推奨している	370	157	34	561
従業員のマイカーでの通勤を抑制している	93	415	53	561
停車時のアイドリングストップを励行している	216	294	51	561
燃費向上のため、日常・定常点検整備を励行している	305	207	49	561
経済速度での運転を励行している	335	171	55	561
事業所近くへの外出は、なるべく徒歩や自転車で行く	285	226	50	561
両面コピーをするなど、用紙の使用量を削減している	427	99	35	561
会議等における資料配付数を抑制している	354	147	60	561
印刷物やパンフレットの発行部数を必要最小限にしている	412	100	49	561
包装・梱包の削減、再利用をすすめている	342	153	66	561
回収ボックス等を設置し、廃棄物の分別回収を実施している	391	130	40	561
使用していないIOA機器の電源を切っている	411	107	43	561
階段の利用を推奨している	330	149	82	561
事業所内や周辺の緑化に努めている	272	223	66	561
省エネルギーや環境保全に関する従業員研修を実施している	107	390	64	561

一般的な事業所	はい	いいえ	無回答	合計
冷暖房の適切な設定温度を決めている	302	120	63	485
冷暖房の稼働時間を決めている（残業時間帯にはOFFにするなど）	147	269	69	485
春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている	233	149	103	485
暑さ対策として勤務スタイル（服装）の自由化などを認めている	131	209	145	485
照明の点灯時間を決めている	153	285	47	485
昼休みや外出時に消灯している	305	143	37	485
明るい窓際では消灯に心がけている	268	177	40	485
節水を推奨している	310	141	34	485
従業員のマイカーでの通勤を抑制している	81	354	50	485
停車時のアイドリングストップを励行している	168	268	49	485
燃費向上のため、日常・定常点検整備を励行している	252	187	46	485
経済速度での運転を励行している	281	152	52	485
事業所近くへの外出は、なるべく徒歩や自転車で行く	249	189	47	485
両面コピーをするなど、用紙の使用量を削減している	355	97	33	485
会議等における資料配付数を抑制している	288	138	59	485
印刷物やパンフレットの発行部数を必要最小限にしている	350	90	45	485
包装・梱包の削減、再利用をすすめている	291	134	60	485
回収ボックス等を設置し、廃棄物の分別回収を実施している	321	124	40	485
使用していないIOA機器の電源を切っている	348	95	42	485
階段の利用を推奨している	281	129	75	485
事業所内や周辺の緑化に努めている	234	188	63	485
省エネルギーや環境保全に関する従業員研修を実施している	68	356	61	485

先進的な事業所	はい	いいえ	無回答	合計
冷暖房の適切な設定温度を決めている	65	9	2	76
冷暖房の稼働時間を決めている（残業時間帯にはOFFにするなど）	25	47	4	76
春や秋には冷房の代わりに外気を取り入れるようにしている	44	28	4	76
暑さ対策として勤務スタイル（服装）の自由化などを認めている	14	50	12	76
照明の点灯時間を決めている	28	46	2	76
昼休みや外出時に消灯している	62	13	1	76
明るい窓際では消灯に心がけている	43	29	4	76
節水を推奨している	60	16	0	76
従業員のマイカーでの通勤を抑制している	12	61	3	76
停車時のアイドリングストップを励行している	48	26	2	76
燃費向上のため、日常・定常点検整備を励行している	53	20	3	76
経済速度での運転を励行している	54	19	3	76
事業所近くへの外出は、なるべく徒歩や自転車で行く	36	37	3	76
両面コピーをするなど、用紙の使用量を削減している	72	2	2	76
会議等における資料配付数を抑制している	66	9	1	76
印刷物やパンフレットの発行部数を必要最小限にしている	62	10	4	76
包装・梱包の削減、再利用をすすめている	51	19	6	76
回収ボックス等を設置し、廃棄物の分別回収を実施している	70	6	0	76
使用していないOA機器の電源を切っている	63	12	1	76
段階の利用を推奨している	49	20	7	76
事業所内や周辺の緑化に努めている	38	35	3	76
省エネルギーや環境保全に関する従業員研修を実施している	39	34	3	76

問17 建物や設備の改修・更新の予定

建物や機器・設備の改修・更新の予定



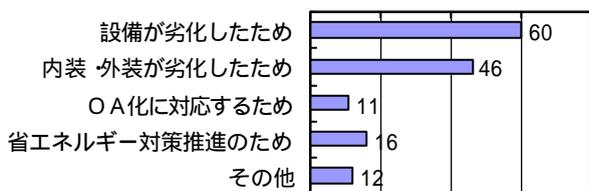
■ 改修・更新の予定がある 【 、 に回答】

□ 今のところ予定はない

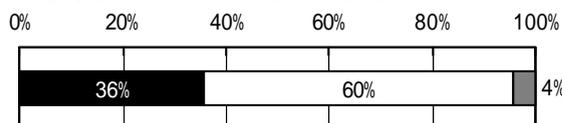
□ わからない

■ 無回答

【改修等の目的】



【改修時等の省エネルギー対策の有無】



■ 省エネルギー対策を実施する予定がある

□ 特に予定はない

■ 無回答

【省エネ対策の具体的な内容（記述回答）】

- ・照明・空調などでのインバーター機器の採用
- ・OAの省電力型への変更、エアコンの省エネ型への交換、省エネ型設備の検討
- ・照明の白熱電球から蛍光灯電球に変更。
- ・空調はゾーン制御（個別空調方式）
- ・デマンド監視システムの利用、冷暖房設備・照明のスイッチを集中管理
- ・屋上緑化
- ・空気清浄等のエネルギー使用より光触媒の可能性
- ・太陽光発電、風力発電設置など

資料 1.4 自由回答

〔市民の記述回答〕

オフィス、ホテルなど冷房、暖房が強すぎます。重ね着、薄着などで調節するようにしては？車に関して2台目もしくは3台目から環境税を付加しては？もしくは車税により課税をプラスしてはどうか？公共交通機関を利用し易い様に特にバスのダイヤの見直し、路線の見直し、乗車料金の工夫等できないものでしょうか。

「夏は暑く冬は寒いもの」昔から言われたことばながら人々の甘えとおごりから抜け出すことは口で言うほどやさしいことで無いしつついつい又甘えが出て来てくずれそうである。段階的に家庭から近隣へとことばかけをしてこの運動をあせらずゆっくりおし進めて行けたらと願っています。

DVDや家庭用電話も結構電気を使ってませんか？公務員住宅に住んでますが、こういう所でも使える太陽光発電機とか生ゴミを堆肥にするものとか開発されてますかね？冬の金沢はまだ経験していないので（平成14年4月転入）暖房についてはまだわかりません。

エアコン等暖房・冷房の設定温度を決めハード的に自由設定出来ないような機器を開発義務づける。1日の使用時間を予め決めておきそれ以上は電源が入らないようにする。電力使用量の契約で予め決め、オーバーしたら割増金、それを下回ったら割安にするなどしたらどうか（携帯電話の契約を参考にする）。

金沢の交通便の状況で車を使用しない様にする事が難しい。便利な交通手段があれば積極的に利用したいと思うが…。金沢市内ではモノレールを交通手段として設置するのは無理なんでしょうか？ずっとこれは可能に出来ないかと考えていた私です。

生ごみは家の空地に埋めてなるべく収集ごみには出さない事にしています。土に返し畑に戻していますが、生ごみは別に収集する事は考えていないのでしょうか。我が家ではソーラーで給湯していますが（冬は無理ですが）設置に対して補助金を出す事などは考えていないのでしょうか？

国や行政が省エネについてどのような対策をしているか明確にしてほしい。税金を新しい資源開発資金にあてその成果を報告してほしい。

車を購入する際に低排出ガス車のみの特典をつけてもらえるとそちらを購入しやすい。省エネタイプの家電はその他の家電よりも値段が高いので助成金が出るとうい。

個々のレベルでの評価システムと地域レベルでの評価報告システムが必要ではないか。達成感を感じられるシステムが必要。教育、啓蒙活動に対する補助・援助が大事。

省エネの機器に環境税からの援助をしやすく、使いやすくする。

- ・家庭の省エネのピーアール。
- ・国家的な大規模な省エネ、産業間の省エネ。
- ・新発明の省エネ。
- ・リサイクル出来る省エネ。

少し不便になってもペットボトルはすべてなくすべき

だと思えます。昔のようにビンに変えればよいと思う。家庭風呂があるのに銭湯に行く場合に割引にする。車は20才未満65才以上の人は自家用車はもたないで公共機関を利用する。今の時代あまり不便のない時代なのに車を使いすぎると思えます。ちょっと買い物、ちょっと用事にと。

生産者が省エネルギー機器の開発にもっと努力すべきである。本調査を市がやらないで、なぜ調査機関に委託するのか理解できない。

設問の意味がとりにくい所がある。家庭ではつつましく省エネに心をくわしているのに建設や土木工場の現場をみる時、我々の行っている事なぞまるでちっぽけで、これで良いのか大きな疑問を感じている。朝シャンなどの自粛が必要。高温多湿の日本で夏の28度は湿度が低ければ我慢出来る温度である。湿度が70にもなる除湿の必要がある。

ソーラーシステムや太陽光発電のマンション、アパートを作ってほしい&補助。補助のPRをもっとわかるようにしてほしい。家を建てる時にわかるように。省エネルギーも必要だけど少水、ゴミ出し（これはわりかしPR）を個人宅でもっと定期的に推進するように呼びかけてほしい。1回的に大きく宣伝しすぎ。定期的に。新聞、雑誌、菓子箱（特に！みんな分別していない。これはゴミのPRに入れてほしい）DMちらしを持ち込みじゃなくて別に回収してほしい。バーゲンセールの際に駐車場が無料なので列になってみんな来るのは迷惑。店はバスなどの公共交通機関を利用するようもっと進めるべき。アイドリング状態が長いし渋滞する。バーゲンは店の駐車無料券をなくすべき。バス無料券などを発行。郊外の駐車場を用意する。

太陽熱をもっともって利用した方が良い。夏場の天井。車の屋根、ボンネット等の断熱工夫、車の色によりかなり温度差がある。車内の温度が違ってくる。そのためにクーラーを強くしたり弱くしたりしなければならぬ。冬場は逆の減少になるがクーラーの使用は夏よりかなり少なくなったが、ビルの高温化（無駄なビルが多すぎる。考えてほしい。）

ネオンサインが多すぎる（特にパチンコ屋、飲食街）。車のガス、ちょっとの停車する時もエンジンのかけっぱなしが多い。若い人のトイレの水道水の使いすぎ。

マイカー規制、相乗りの推進、市街地への入車規制。税制面での優遇・補助（安価に購入できるようにする）。法人税の優遇（優良企業に対して）。祝祭日を増やす。リサイクルの推進、自社製品に関し企業への回収義務化。

無駄なアンケートが調査は不要では？税の導入か規制で推進するのは、方向性に誤りがある様に思える。それぞれの家庭が自発的に取り組めるように手助けするのが国か市に必要。

将来を担う子供達の環境に対する意識を高めることが不可欠だと思う。そのためには小中学校時からの環境教育を徹底することが必要。学校・家庭に道徳心を取り入れた生活を根づかせる。八丈島での取り組みであるエコボイ（？）というシステムは参考になるんじゃないかと思う。

1. このアンケートの中にもいろいろ省エネ具体策があったが、更に具体策を数多く集めたミニミニ冊子を市で作成し全家庭に配布し啓蒙したらどうでしょうか
2. 我が国は火山国であり、温泉をもっともっともっと活用したらどうでしょうか
(家毎の入浴 銭湯へ) 例えば、市内の天然温泉銭湯の入浴料が安くなる方法(低利貸付けや補助等)、沸かし銭湯の天然温泉化(超長期貸付けや補助、利用者の株主制度の採用等々)の促進

自動車社会を否定する事は無理なので、無公害エンジンの完成に国を上げて取り組む。冷暖房についても熱を発散しない機器の開発に国を上げて取り組む。

牛乳パックの中に新聞紙をつめこみいらなくなった油をすてる(燃えるゴミの日に)。ティッシュペーパーのあき箱に生理用ナプキンを詰め込みすてる(燃えるゴミの日に)。米のとぎ汁を植木や草木にかけて排水に流さない。

1人ひとりが省エネに取り組むことが大切。日常生活の小さな積み重ねが日本全体では大きな効果になると思います。

アスファルトとコンクリートでは照り返しが違うのではないのかな

雨水や草木を使つての省エネルギー。コンポスト使用や屋根や壁に草をはわせると熱の上昇を防げるとも聞きました。

アルミ缶やスチール缶、ペットボトルに紙パック、ガラスびんに陶器の容器。種類が多すぎる。2~3種類に限定してほしい。その他の商品にしても、もっと簡易包装にしてほしい。ゴミが少なくなれば、その分大きな省エネになると思います。

アンケートに回答する所も私には大変少いで残念ですが回答に参加致しました。現在の生活には個人的な省エネ対応をする事もありません。社会福祉、救護施設に入所にて生活している現在です。省エネに対しては施設にて実行されている様に思っています。地球温暖化防止に社会全体にて取り組みをするべきことと思っ

ています。
アンケートに記入しながら自分の省エネが十分でないことを知らされました。電気器具、ガス器具、自動車等の発売時にもっと省エネの宣伝を大々的にしたらよいのではないかと。電力会社はもっと電力を使用しないように強くアピールしたらよいのではないかと(これまででは使用量を増やすことだけを考えていたように思う)

アンケートよりももっと具体的案を出してほしい。例えば法律で強制するとか?

アンケートを記入しながら現在の生活の見直しをすべき所が沢山ある事がわかり反省しています。私達の子ども達などの事を考えるととても重要な事です。もっともっと実施して行く様努めます。

家ではかなり省エネルギーに関して積極的に取り組んでいると思っていましたが、このアンケートに回答していて、まだ、行うことがあると感じました。省エネ推進のための新しい制度、機器が最近増えていることや、省エネの具体的な方法、省エネの設備にもわからないものも多く、市にはこれらの情報提供をお願い

したいと思います。なお、アパートから(省エネ型の)マンションへ住み替えてから冷房、暖房の光熱費がかなり少なくなったことを実感しました。省エネ型住宅の建設を指導、購入補助してもらおうことも市へお願いしたいです。

意識付けを中心に考え、啓蒙活動をより活発にすることが全てにつながるものと思います。一般家庭における心の余裕がそれを引き出すものとなります。

今、自分がやっている事は(コンセントを抜くなど)省エネというより、電気代の節約という意識でやっているもので、いまいち温暖化が身近な問題には思えないのが本当のところ。もっと、こういう事をすればこんなに温暖化防止につながるんだよ!というような事がわかれば、もっと今と考え方や感じ方も変わるだろうし、意欲もわくと思う。たぶんみんな温暖化などの知識がないので、どうすればいい?と言われても「??」という感じだと思う。私がそう。

今の日本は豊かな生活にひたり過ぎ。文明の発展と共に物の無い時代のことを思えば省エネなんて何のその1人1人が少しのがまんて済むはず。

エアコンのガスは地球にやさしいものを。石油以外のエネルギーの開発。

衛星を使い地域で二酸化炭素を計測し天気予報で放送する。

エコキュートなど補助金導入制度があるが、一般的に消費者に伝わっていないと思う。

エコ商品が安くなればよい。風力や太陽利用のエネルギー利用に何かの形で取り組みたい。

エネルギーにも係るゴミ対策の方が重要。ペットボトル、空缶、ピン、吸い殻フィルター等を換金(料金先取)する制度にすれば良い。

エネルギーは割当制にでもしなければ消費拡大は防げない。効率や便利さを追い求める姿勢をなくすこと、近くでは江戸時代が参考になる。大量生産、大量消費はかまわないが、自ずと限界がある。限界を示すことによって具体策が出てくる。人間の生き方をかえれないが、経済性ばかり考えないで、シンプルでスローに生きて、かつ美しく生きることが可能か検討する。個人的には早期退職してのんびりやっている。年収1000万円近くから100万円へと10分の1になったが、心の充実、満足は得られている。私はシンプルライフが一番いいと思っている。最近そういう本が内外でベストセラーになっている。経済を活性化するにはお金を使うことが反面必要であるがエネルギーや環境にやさしい方法で行われるべきである。車などなるべくやめて旅行に行くとかレストランでゆっくり食事でもしたほうがよい。

大きな車やミニバンなどの車重の重い車を買わない運動をすれば良い。

会社の休みを増やす、勤務時間を制限するなどすれば省エネになると思います。

各人が真剣に、先づできることから始め実行しなければならない。一方、自然・太陽熱、風、雨水などの利用を、一般に布及できるように、官民共に研究工夫の余地はある。自然の破壊につながる、山火事、工場火事特に原子炉の事故と安全処置に対して厳重な監視、対策が急務

である。

家族の中でも大人だけが省エネに取り組んでいても子供には伝わりにくい。全員の協力が必要と思うのでこれから子供達にもわかるようにもう少し国で義務づけていく必要があると思うし、大人もそれによって、更に自覚していくと思います。

ガソリン税をもっと上げて省エネルギーをもっと進める方が良いと思う。

過大包装がしてありゴミが出すぎます。自動車に乗ると時間が短縮されて良いと思います。パンフレットが多すぎて読みきれません。紙のむだです。

片方で省エネを強いて、片方で世の中じゅうライトアップしていることの矛盾、この所を行政がもっと強く指導すべきでないか。昨今は行政がチグハグの事商店街等より応援しているようだ。

家庭での省エネは、利用者の数が多いので合計すると多量になるが、環境汚染は工場のたれ流し不法投棄を見逃したり究明しない方が人間のモラルに与える影響がもっと心配だ。又、便利だからといってやたら高速道路を作ったりする自然破壊を減らしてほしい（議員の為の無駄事業）。

家庭用の汎用型のソーラーシステム等の開発があっても良いと思う。

金沢市では紙の再生を収集していませんが、青森県では1週間毎日ゴミとリサイクルの収集をしています。参考にしてみたいかがでしょうか？（弘前市です）

金沢市内は戦災震災に会わない歴史的な市街であるが道路幅がせまく、市内の98%を早目に電柱を地中化に行政を早目に推進すべきである。

感覚的に省エネは解っていても実行に対する意識は普遍的とは思えない。南極や北極が氷解して海水の上昇といってももうなずきだけの人が多く、話題より前へ進まないのが人情。従って、啓蒙活動は学校などから始めるべきではないか。大人は自己都合だけで生活する習性が身につけてしまっているが、子供の言う事なら耳を傾ける。特に男の大人は駄目。理屈をこねるが実行しない。女性は事を理解すれば積極的に動くが、男は全般的に見て話しにならない。掛け声は立派だが実行が伴わないのが実態である。自分を含め痛感している。反省をするがそこまで。教育・指導には時間が必要となるが着実な進み方を考えた方が効果は上がる。それに世界的に見ても自国エゴがまかり通るようでは困りものである。

環境問題、省エネ問題は子供達に解り易く教えてゆく必要がある。各家庭で、また、学校で常日頃から取り上げて行くことが大切。もちろん、社会全体が真剣に取り組んで行くべきであり、メディアでの取り上げ方にも物足りなさを感じる。

環境問題については、国レベルの問題でなく、世界、地球レベルの問題で、法律、条例などと言っている問題でもない。おそらく人間が人間らしく生きていく上で、一番必要不可欠な問題をいつまでも後回しにしてきたことに問題がある。最優先にすべき事を未だにのんきそうにしている人間社会。もっと個人レベルから意識の改革と、社会生活の改革、生活習慣の改革etc...を、日常レベルで出来る社会になるよう、もっと、国

も地方も企業も努力しなければならない。省エネと大きく何か特別な事でもしなくてはいけないような感覚をなくさなくてはいけない。当たり前出来る個々の意識にしなければ。

官公庁は率先して模範を示すべき。見た目だけでなくバス通勤とか、市民に見せて初めて市民も行う。市が発注している工事で、工事業者が昼休みアイドリングしたまま昼食しているとか。

今日の便利な暮らしは当然と思っているであろう子供や青少年達に実は地球のどこかでどんどん環境破壊が起こっている事を教え伝えていく事も大事なのではないかと思います。学校教育の中にも取り入れるべきだと思います。

草の生命づく大地を増やし舗装を最少にする。

国から初める様にしたらいいと思う（いろいろな事で）

国の法律などで企業の大口エネルギー消費について環境税などの導入を図る。

国のような大きな組織が主導権を握って動くよりも、もっと小さな単位、例えば市や町内会などが中心となって取り組み、推進した方が良いと考えます。問題が地球規模と大きい為、ともすれば他人事のように考えてしまいがち。身近なところから問題意識を呼びおこし、実行していけば良いと思います。町内会での「省エネキャンペーン」等をすれば、町内会の人同士で、身近な問題として環境問題について話をする機会が持て、意識も高まるはず。市としても、そうした企画に対する助成に力を入れてみるというのはどうでしょうか。金沢の町は全体としてまだまだ環境に対する意識が低いような気がします（私も含めてですが）。市がこうしたアンケートを実施して、環境に対して積極的に取り組もうとしているのは頼もしいことです。今後に期待しています。

車関係（ガソリン等）の税の見直し、保有、走行距離等を制限するため。ソーラー、風力の未利用発電のための助成。ものを大切に作る運動（心）の啓蒙。学校、家庭教育など子供の時期から意識をつける根っこの部分の行政指導が必要。教育、行政は手ぬるい等。

黒い煙を出している車を見かけますがあれをもっと取り締まってほしいと思います。緑の多い金沢の街です、今のままだと庭木は枯れる木が出てくるでしょう。

結局、個人個人の意識の問題だと思いますが、車のアイドリングがいつも気になります。特に、冬とか夏に多いですね。また、排気ガスも含めて道を歩く者にとってとても気になります。家庭内のことはある程度個人の努力で解決できることもありますが、低公害車の導入、公的交通機関の利用の便等政策に関わる問題等は個人の力では手が届きません。CO2の排出量は依然として増加傾向にあると聞いています。個人、企業、政治、共同でのとりくみが必要かと思います。

消雪装置欲しい時働かないで温かい雪が消えた時たれ流し、もったいない。こまめな巡回必要（市？県？）市や県の省エネしっかりやってほしい。その方が大きい。

県・市が中心になって省エネに対しての指導してください。

現在賃貸借アパートに住んでいます。国・県で、この

ような物件はまず、建物から取り組んでほしい。賃貸の場合とかは、建物、ガスetcなど決まっているので、改装する事も何もできない。どんな事でも1人1人が対策しないといけないと思う。何もかもまとめるのは難しいと思う。

公共交通機関の運転について、より一層の省エネ運転に努めるように指導願いたい。不必要なアイドリングや急発進・急加速をなくしてほしい。

公共の足である市内バスの排気ガスがものすごく汚い。市が率先して公共のものの省エネや環境汚染防止に力を入れるべき。

公共の場所乗物（バス）での冷暖房特に夏期の冷房が強いと思う。いつも長袖を持歩いているがもう少し考えてほしい。

高速道路などに設置してある防音壁を太陽熱（ソーラーシステム）による発電ができればどうでしょうか。

公的機関での取り組みと実体を公表し、また家庭での取り組みの具体例を発表してほしい。

個々の家庭が地球温暖化防止に努力していくのは、これからの地球のことを考えると必要であり、その効果は絶大であると思う。ただ個人であるがゆえ限界もある。官民一丸となって温室効果ガスの発生しない製品、商品を早く開発し、一般にコストを抑えた形で普及させなければこの問題は解決しないと思う。

個人や企業、県・市の行政機関の意識改革がまず第一と思います。今まで安易に考えたごみ捨てや電力消費、自動車燃料などなど、どれもこれも限りある資源という事を再認識してきれいな地球を取り戻すため1人1人の努力で省エネに取り組みたいものと思っています。

答えやすいアンケートだったと思います（部屋の広さなどはちょっと...ですが）。省エネは私は主に節約の点から行っていますが、やはり環境にも留意しなければいけないと思います。そして、省エネについては最近は一時的な盛り上がりがなく、年齢の低い子供達はあまり省エネについて知らないのではないかと思います。ですから、学校での取り組みが非常に大事になってくるのではないかと思います。

子供の頃から教育していく。（学校で環境科目を作り教育）

これから真剣に取り組んでいかなければとつくづく思いました。

今後の地球のことを考えると、省エネは必ず必要であると思われる。

最近特に思う事は先日までパードでマイクロ送迎の通勤をしていて若い人のマイカー通勤の多さにびっくりしている。交通渋滞が曜日関係なく毎日で公共のバスを使う人があまりに少なく20年前の私のバス通勤を思いバスに乗っている人が少ないのにあきれています。1人1台の時代になってしまいつくづく車の多さ感心しています。道路をいくら作っても駐車場を広くしても限度がある国土の狭い日本もっと会社ぐるみでマイカー通勤を控える様に力を入れた方がいいと思う。考えるべきだと思う。排気ガスを出来るだけ減らす事が地球温暖化対策を私たちが少しでも出来る事だと思う。

最近ハイブリッド車の開発がだいぶ進んでいるように

思うがまだまだ値段が高いので買えないので、ほしいと思っているが買える状態ではないのもっと安くしてほしい。

里山を実現し、少しでも地球にやさしい生活をして行きたい

市街地までのバス料金が高いので車を利用してしまおう。フラットバスみたいなのがあればいい。

自家用車が戦後の自転車以上に増加している現在車庫も持たずに車を野放しにしている人も有る。このような状態で、車を増やす事は、環境にも悪いし、又、地球温暖化を加速する事になるのではないだろうか。

市からの指導不足。特に高齢者家族が一番指導が必要だと思います。規制等により徹底化を図るべきと考えます。

資源回収は金沢市はしているが、他はしていない。全体的に考えると効果が上がらないように思う。一斉に取り組み、どれだけの効果が上がったかわかるようにすると維持しやすいと思う。また、包装については、企業に対して国レベルで働きかけ無駄をなくすようにしていかなければならない。

自宅にエネルギーを使用している物が沢山あって、いろいろな家電製品などは出来るだけ片づけ、最小限必要な物だけを利用し、省エネに気を付けます。

質問を読んで「そういうことがあるのか」を知ることも多く、確かに最新の情報に疎いことがわかりました。多くの正しい情報を行政が流してほしいです。

自分が思ったより省エネ等を実行しているのに少し驚きました。テレビの深夜番組やコンビニなどいつも使っている（又は見ている）わけではないと思うんですが...。多少不便に思うくらいが丁度いいと思います。

市民、企業、自治体それぞれが努力する必要があると思います。省エネしようとするケチと思われがちですが、それが環境のためということにつながるからだと思います。身近な省エネが・・・を救う、とか・・・の節約につながる、ということ教えてくれる冊子や水道などの近くに貼るシールのようなものを各家庭や企業に配布してはいかがでしょうか？

省エネ、環境問題には人並み以上に興味は持っていますが例えば省エネ器械に買い換えたいものはあるが、経済的にゆとりがなく故障次第買い換えていきたい。

省エネ、環境悪化防止は日常生活の不便を覚悟で実施しないとイケないのではないかと？道路を作れば車が増えるのは当然、それは省エネに反する。道路はこれ以上作らない事。自然の変化に従った暮らしに逆戻りしてはどうか？人類の生存期間はもう先が見えているのでは？というのは人類が住めるような地球は50億年かかったときくが、それが数十年の間に破壊されようとしているとの事・・・言いたいのは行政のやるべき事は「利便優先、不便排除」の思想から「自然環境優先、企業利益排除、不便歓迎、自然に従順」の思想に転換する様な施策を希望します。（暖房はコタツでよい、冷房はウチワでよい）一度10日間程試行する事を提唱します。トツピな発想から未来が生まれると思うが...

省エネ機器は高価な場合が多い。電気自動車がいい見本。今は補助金制度などを導入して、購入しやすい環境を作ることが大切だと思う。いずれは環境税の導入

もよいと思うが、1人1人に環境について考えてもらうように働きかけることが先だ。考えだけが先行し、実態が追いついていない。

省エネ製品や住宅に対して補助を与えることで強制ではなく省エネ製品を使うことが消費者にとってお得になるようにして普及させる。

省エネ設備、装置の價格的安くする補助金を出す必要がある。不要なエネルギー（ネオンサイン等）の規制が必要。夜間の活動を限定する政策が必要。企業（会社）省エネ協力日の指導（補助）が必要。個人の使用をしなくて全体（集団）で使用するシステムの構築が必要。

省エネ対策は、それぞれの心掛けがポイント。しかし実行することは出来ないのが普通であり、省エネ機器の開発と対価生産が必要。物価上昇期にそなえて行政が開発を公開し、地域住民に成果を補助するようになれば将来的に効果があると思われる。

省エネとは、よくわからないので、どのように取り組めばよいか良くわからないです。

省エネと一言で言うのは簡単ですが、現在の経済システムは、消費が多い程（=お金の流通が多い=エネルギーの消費が多い）社会が活発になるようになっていきます。米国がCOP3に反対するのもこの為です。今後、人間が地球と共存していくには、この消費による経済システムを世界的に変えていかなければなりません。日本人一人一人が本気で省エネに取り組んだ場合、消費の減少 お金の流通の減少 日本経済の大不況 世界の中で日本は負け組になるという流れになってしまいます。もちろん、日本と世界の経済を切り離せばこの流れにはなりませんが、それは不可能です。また、日本で省エネに成功しても他国でエネルギー消費が増えたら意味がありません。工業化を夢見る発展途上国もあり困難な事ではありますが、世界中を巻き込んで省エネルギーを実行しないとイケないでしょう。市の条例や国単位でできるような簡単な問題ではないと思います。

省エネに関する正しい情報があれば自分のできる範囲で取り組んでいきたい。

省エネについては今後の見通しをはっきりして各人の意識向上を求め、しなければこうなる等をPRすべきである。

省エネには関心があり、個々の家庭で気を付けなければならぬと思っていますが、省エネ家電はやはり高いと思います。省エネが安いものかと聞かれるとやはり今の状況からは安いものを選んでしまうと思います。車にしても石川県では必要なものですし、やっぱり省エネタイプは手が届きません。とても高いです。買える方もいると思いますが、我々は無理です。今、私達にできるのは、暑くても日中クーラーをつけずにがまんする事くらいです。

省エネの仕方ですぐにできることをもっと浸透させよ省エネのための広報をし、企業及び各家庭に浸透させることが必要だと思います。自分が生きている時代だけ無事であれば良いとか、理屈は解るけれど不自由はしたくないなどの段階ではないと思います。冷暖房の設定温度等各機器の使用の仕方を行政が指導していくべきだと思います。

省エネの必要性は理解出来るが、その為に個人が省エネ製品を買わなければならないのは個人の負担増になり大変と思う。長引く不況化、給与等も下がることはあっても上がることはない時代、目先のことに気が向いてしまうと思う。他方、テレビ局は24時間テレビなるものを実行し、お金を集めているが、あれははたして省エネになるの？地球を救うことが出来るの？と疑問を感じてしまう。国や地方自治体で省エネを義務づけるなら、個人より役所や企業からすべきと思う。何より国会議員の人数を減らし、公務員のリストラをすることにより、国、自治体での省エネ取り組みが出来るのではないだろうか？

省エネは今後の地球温暖化対策として必要な事と思えるだけその方向で対処したいと考えています。

省エネは大切なことだと、アンケートに答えながら思いました。地方にあり、色々特色があるので地方自治体がリードして進めるべきと思う。

省エネは地球規模の問題として考えるべきですが、個人としては省エネの結果として出費が抑えられる利点等、個人的な利益が得られる事から取り組むきっかけになると思う。

省エネルギー機器の援助があれば買い変えとかも出来るからいいと思う（省エネタイプの商品と）

省エネルギー商品の標示がはっきりしており、買う時多少高くついても市から助成がある場合、頑張って買ってほしい。

省エネルギー対策には皆関心があります。二重サッシや壁や天井への断熱材の利用はやりたくても費用の面で躊躇されると思います（自分も）。省エネに協力の時は一部負担を市がとって下されば沢山の方の協力があるのでは・と思います。

省エネルギーについて、家庭での成果がわかりにくいのが、ひとつの問題点だと思います。国にはなかなか見えないことを普及させていくのが困難なことは十分に想像できますが、幼少時、学校教育からの心だけの伝受が不可欠でしょう。

省エネルギーに熱心だったつもりだったが、子供の成長にしたがって電気製品が増え、使用量も増えているのに気づいた。家族の同意協力が得られれば、風呂をまとめて使ったり、サマータイム的に夜の電気使用量を減らしたり、努力できる面が多いと思う。関心を高め、実行にうつす人材育成が必要だ。中・高生、職業を持つ（特に男性）人の意識が低い。実行力も少ないと思った。この分野の人達への意識改革が必要だと思う。また、国家的にサマータイムの導入が望まれる。家庭でも早寝早起きのサマータイムをするのがいいと思いました。

省エネルギーは地球のためというよりむしろ自分のためという意識が芽生えるようにその省エネ努力に対する効果が目に見えるようにすれば思ったより簡単に予想以上に進むこと間違いなしであろう。例えば「全家庭に温度計をつける」「現在の電気代、水道代、ガス代が部屋の中から見えるようにする。」などなどです。

省エネを唱え指導する方々が個人では実践していない方が多い。

乗用車（通勤用レジャー用）のディーゼル車はやめた

方が良いと思う。

政府の企業指導が足りないつてを市民におしつけてばかりで、改善にならないと思う。

世界的課題とともに、国の施策としてあると思えますが、一般に対する浸透率はおそまつな感じがある。具体策として、町内会単位でしっかりと実施してゆける智慧がほしいと思われま。他人ごと、他山の石の感覚では、目的達成は難しい部分があると思えます。アイデア1．一定の時間（例、15～20分位）が経てば、自動的に主電源が切れる装置を、これからの製品に可能な限り設置すればと思えます。アイデア2．集合住宅の階段灯について、自動感応点灯式を義務づけることも必要かと思えます。皆全く無関心にて、昼なおつけっ放しとなっているケースを見受けます。"

総合的な交通機関の統制について省エネルギーを図る（鉄道、バス、自動車、トラック等）

ソーラーエコキュートには補助金をどんどん出すべきであると思えます。

ソーラーシステムを住宅新築と同時に備付け活用しているが極めて効果大で省エネとなっており、建築許可申請の際に設置を義務づける等、推進策を法律や条令化してはどうか。また、リホームの場合にも同様の基準を設ければ省エネ効果が発揮されると思われま。

ソーラーパネル等、興味があるが値段や工事の事解らない事だらけで、手が出せない。説明を聞いても「高かったらどうしよう」と思い、聞きに行く事さえない。蓄熱利用や、IHヒーター等も、どっちが得か、良いのか、いくらかかるのか、自分で行動しないので分からない。もっともっと日常で簡単に省エネできる事があるのか知りたいが、その機会がない。自分で探すのも面倒。沢山の情報が入れば、もっと積極的に省エネに取り組むのかな。

それなりの関心はあるが、いざ個々の家庭のこととなるとついうっかりして従来のやり方になりがちであるのが難点ですね。具体的な指導を市町村が主になりやうて頂ければ有り難い。

太陽エネルギー、バイオガス（天然ガス）、水素エネルギーなど今いろいろ開発しているエネルギーをもっと一般家庭などで使えるように国をあげて対策を考えてほしい。未来は自分達で守らなければならないと思う。

太陽光発電及び家庭用2kWの風力発電についてもう少し補助金を出すべきである。まだ取付費用を0にするまで10年以上必要かと思われる（計算上）又それに補修費も必要であり、税金面でも減税すべきである。マイカー通勤を減らすため市内の駐車場を減らす対策を取るべきで駐車場には環境税を導入すべきである。又公共交通機関を増やさなければマイカーは増えるだろう。昔は市電は23:00過ぎまで走り10～15分間隔で走っていたが現在はバスは20:00でなくなってしまう所まであり23:00までは交通機関は20分に1本位出すように法律で決めてほしい。学校の先生なんか全員マイカー通勤している現状を踏まえマイカー通勤者に通勤費の支給はすべきではない。マイカー通勤者からは通勤を取るべきだ。公務員全員に広げれば温暖化防止に役立つ事と思う。それから民間に広げマイカー通勤者何

人かで企業より税金を取るようになる。本当に真剣に考えるならそこまでやる事。そこまでしなければ出来ない。

地域循環型社会を目指す。住んでいる地域で生活の全てをまかなうようにする。物流を減少させる。

地球温暖化、省エネ対策の元凶は何と言っても車社会であるという事は否めません。住宅や家電の省エネは極めて基本的で欠く事のできない対策ですが、最も抜本的対策は車及び車社会に対する対策だと思えます。それも行政の側から行う対策がより抜本的と思われま。例えば、ヨーロッパで見られるように都心部一定圏内は車の乗り入れを禁止及び制限、車の路線は環状型にするなど...これによります車の利用度を低くし需用を押さえる。これと対応して自転車道、歩道の整備の必要はあると思えます。又省エネ車、省エネ機器をより購入し易い価格にするのに行政の何らかの援助、補助があつてこそ積極的に普及するものと思われま。

地球温暖化が急速に進んでいる現在、金沢市でこのような取り組みは誠に時流に合ったものであり、その主旨にはもろ手を挙げて賛同致します。就きましては、この頃特に感じますことは、自家用車の多いことです。一家に1台ではなくて大抵の家では3台から4台、人数の数だけある家庭をよく見かけます。それ故自家用車の規制は是非とも必要なことと思えます。そのため不便が生じるようであればドイツの様にバスを増やして通行に余り支障を来さないようにすればよいのではないかと思えます。どうぞご一考下さいますよう、私達はどうか動けば宜しいのでしょうか。ご指導頂きたいと思えます。

地球温暖化防止対策に向けて、一般小売されている物（スプレー等）についても、国の指導で取り組む必要がある。他に、車、電化製品、工業等、各国々が取り組まなければ地球はあぶない！

地球温暖化防止に関しては、法律や条例等で規制しないとなかなか無理だと思えます。省エネに取り組み、成果があつた場合のご褒美と違反の取り締まりにメリハリを付けければと思えます。

地球温暖化防止策は必要だと思うが、実際何をしたいか何が出来るのか、よく分からない。市が中心となって省エネルギーの取り組みを指導した方が、一般市民は動くと思えます。一人でも何でも出来ないけど、多くの人ですれば成果も出ると思えます。でも、環境税の導入はやめてほしいです。税金ばかり高くなって、生活を苦しい方に向けないで下さい。納得して取り組める方法を考えて下さい。お願いします。

地球も我が家との考え方から昼も夜もある。今の日本社会は昼間的な考え方と行動にて地球の分別化が生じています。人類の人間性の生き方を正していけば、自然に省エネは解決されます。我が家の具体的生活、時間（早寝早起）（公害）、人（会話、情報、知恵、協力）を守っていくこと。根本となる教育を初期の頃から家庭、学校、社会教育と広げ、人の大切さ、物の大切さ、時間の大切さ、生涯の大切さを理解していけば必然と地球温暖化は減少します。そのためには、時間がありませ。当然のことながら国も行政も企業も家庭も規制（昼も夜もあるとの考え方）しなければならぬと思えます。

調査に協力する立場の事を考えて記してほしい。

書き方～[例]場所-(居間、子供部屋、客間、その他)、電気器具の使用しないで持っている場合を除外と記するなど…

ディーゼル規制も環境対策と心得ているが、我家も数年前にディーゼル規制を知らず、長期ローンにて買入した。ディーラーからは何の説明も受けず、翌年に知り、困っている。10年目の車検までは受ける事は可能だが、その後は受けられず買換えの為に下取りに出すにも足元を見られ、割が合わない。法を施行するのであれば国民へ皆への周知は困難である事を思えば生産業者、メーカー、販売店などに強く指導すべきである。

電気代や水道代の節約になればと思って使わないライトをすぐ消したり、コンセントを抜いたり、風呂の残り湯を洗濯にあてたりしてたことが、このアンケートを書くことで、省エネにつながっていることを知りました。主婦は料金の節約になることを知れば、普段から省エネに心がけると思うので、1年間それをやるのとやらないのではどれだけ料金に差があるのかという具体的な数字を出して、どんな方法があるかも一緒に載せたパンフレットのようなものが手に入ったら良いなあと思います。今回アンケートに協力でき、あらためてエネルギーの節約を心がけることが大切なことを再認識させて頂きました。ありがとうございました。これから集計など大変だと思いますが、頑張ってください。

電力に応じた税金制度の導入

問16のようにみんなにもっとわかりやすいようにPRすべきである(町内会、学校、新聞、テレビなどを通じて)

東京都立工科短大電気科でエネルギーの講義を受けることができた事を感謝している。未来技術として有望とされたのがエネルギーの効率化であったと記憶している。省エネルギーと似ているのでさすがに21世紀に生きているのだなあと思える。東京で生きていた時は、砂漠の緑化など都市に不満なことを自然に求めていた。不便な田舎に従って生きれば人間が激変させた環境を尊い生きとし生ける生命に責任を負わす事は万物の霊長として適任か反省を要すべきではないだろうか。高度技術文明が機械システムのダイナミックな応用で対処したらよいのと思う。窓下の土や草が駐車場のアスファルトになっただけで雪の照り返しでさえ温暖化の要因になった。冬の暖房の必要を感じなくなった。昔とくらべて降雪も少なくなった。火星の最接近が地球の天候に関連がかなりある様に思う。木星にシューメーカーレビークラッシュがあった時も暑い年だったなあと思う。太陽の黒点が多いときも地球は照射エネルギーを多く受ける。そして足もとの地球はアースダイナモで人間と最密接に関わっている。心頭滅却しつつ科学の進歩と知恵と知識の発展を期待している。

当市は緑も多く、CO2も少なく、生活に良い地域と私個人も住み良い所と思っていますので、市民も温暖化防止等はテレビなどで知らされていますが身近に感じない為、義務的に行って取り組む事が大切だと思います。

年寄りでは理解しにくいところもありましたが出来るだけ協力させて頂きました。

何より大切なことは国や自治体の明確な意志と決意の表明です。一方で市民に省エネを訴えながら、他方で

は経済拡大路線を相変わらず追求する。これでは省エネ施策それ事態が構造化されているだけで意味を持ちません。現行のまま進んでいくと「省エネやっています」という言葉それ事態が詭弁的、うさんくさいものになってしまう(実際企業や自治体の一部には、うさんくさい表現を自己のイメージ戦略として使用しているところがあります)

日頃から家庭で取り組める省エネのためのプランを詳しく知りたい。各家庭にパンフレットみたいのを配布してもらえばわかりやすいと思う。イラスト付で、楽しんで学べるものが良いと思います。

一人一人が温暖化問題に関心を持ち各家庭で省エネルギーに取り組むべきだ。

古い集合住宅等では器具設備等取り組みたくても出来ない(ソーラーシステム・ペアガラス等)ことが多い。古い集合住宅等でも省エネルギーを進める意味で国・県・市単位で助成。

平素から市役所の省エネ対策が不明のまま、市民だけに省エネを押し付けている様に思う。公的機関としての省エネ実施状況をオープンにした上で市民に回答を求めるべきである。

便利さの追究が原因の様々な問題が起こっていると思いい、消費者個々の意識改革と経済優先の商品流通を製造者責任の両面から互に考えるべき時に来ていると思う。遅すぎない時間のうちに…。光触媒による環境浄化の技術が夢ではない未来を期待。

本当に地球温暖化とかオゾン層など目に見えないし、自分ひとりくらいになってしまい、本格的に省エネのことは考えてなかった。そのちょっとした努力がたかさんの人でできれば大きな事となるのも頭ではわかっている、やってしまう。これからのために未来のために気づいた事から始めていこうと思いました。今回かなり考えさせられるアンケートで、私も今会社が借りてる部屋で自分が働いて電気代とかも払うから節約しようと思うし、当たり前になりすぎてる部分があり、これからはもっと気をつけていこうと思いました。一人の努力が大きな地球を救う。こんな考えさせられる機会をありがとうございます。

もっと簡単なアンケートにしてください。

もっと地球温暖化の深刻性をアピールし、1人1人が家の中でできることから心がけてもらえるように指導する人(町会など)を指定し、定期的に調査したりすればよいと思う。がんばって結果が出れば表彰など、町や市に補助金を与え各家庭に喜んでもらえるような政策をとればよいと思う。

もっと手軽に家庭での太陽光発電システムや風力発電システムのような物を導入出来るようになればと思う。それから雷エネルギーを取り込んで蓄えて使えるようになる技術を実用化するべきだと思う。

役所の節電強化実施。例：残業等で室全体電気を灯けている。一般客及び職員の使用するトイレ、通路等の節電。センサー式に交換等に。公用車の削減。

屋根が広いので太陽光熱を利用して発電できるといいと思っているが(なかなか方法がわからず)ずっとそのままもったいない気がする。

雪国では地球温暖化の実感がない。

幼少からの教育が大切。～大人も？平均年齢（死亡）は伸びても人類の滅亡は加速される。

世の中は自動車が増えてそのため排気ガスが空気と一緒にになる。空気が熱くなり世の中も熱くなって来る。エネルギーが少なくなって来たら良い物かと思います。

世は便利になるだけ地球温暖化は進み我々も省エネに取り組まねば

老人同居の場合、どのような対策がとれるのか？省エネ対策には限界を感じるときが少なくないが、何らの妙案が課題では…痛感する事例が少なくない。

路線バスの排気ガスの量はものすごい。何とかしてほしい。

我家には入浴時間1時間30分かかるのが3人もいます。国の法律でなんとかして下さい。その内の1人は市役所の職員です。市役所は省エネしてますか？金沢市内で一番していないのではないですか。私は家で入浴できません。

我家のこれからの省エネルギーについては、金沢も雪国でもあり除雪対策（玄関～通り迄）（通り）（駐車場10数台分）に頭を痛めております。良いアイデアは全て資源を使うか又お金が掛かり結局今年（2月）農機具メーカーから40万円で除雪用の為器具を購入をしました。この機械は雪を飛ばすのではなく、ただ雪を押しに行くものでラッセルする技術も簡単です。軽油代も安く、60才の小生にとっては疲労度も少なくすみます。しかし40万円は高価と思います。

私自身勉強が出来ていません。もっと知りたいと思います。

私達の社会は消費型経済で発展して来たので消費を冷え込ますくらい規制は不可能。だからと言って省エネのための生活実践を行うには、市民への教育も必要であるし、結局のところ経済の発展と省エネは両立するのが難しい。経済の発展がないと、現在の不況と未来は克服できないし、省エネを強く実施すれば経済は一層冷え込む。両者と同時に成り立たせる経済理論を構築するか、それとも、北海道のアイヌの人々の失われた生活やアメリカの17、18世紀の生活をいまだにうけついでいるAmishの人々の生活を学び、それを実践するか、そのどちらかしかないでしょう。それから中国をはじめとするアジア諸国が日本並の生活水準に達した時点で地球はパンクすることになるから、やはり国際政治の面からも考える必要があると思います。

私の家は一人暮らしで省エネに何時も心がけています。

私の理解できる範囲内で記入しました。この資料を拝見していると家庭（我が家）で普段なにげに当たり前のように使用していますが、かなり無駄な面節約しなきゃならない点が沢山あり反省し、無駄のない生きた使い方（有意義）をしなければと思っています。勿体ないの気持ちをモットーに充実した日常生活をと改めて再確認しました。何かの参考になれば幸いです

私は金沢市持続可能な社会を形成するための連絡会に参加しグループ企業ぐるみで温暖化防止対策に取り組んで2年10ヶ月経過しました。CO2削減目標の重点は使用電力とガソリン等の燃料の削減を目指して継続して実行しております。いずれも使用実績を数値でとらえて成果確認を行っています。3ヶ月に一度社内報で数

表を示して全員参加で推進を呼びかけております。身近な家庭においてはまだまだ取り組み姿勢は甘く、なぜ今、省エネに取り組まねばならないかの問題意識が浅く、今後市民が分かりやすい様に具体的に実行可能な手段を示すことが求められる。

私は外での仕事ですので、エアコンが無くても平気ですが、事務関係及び内勤の仕事はやはり一日中クーラーがほしいでしょう。それでは温暖化防止などは無理でしょう。例えば、涼しく風通しの環境のよい場所を設ける、外の場合であれば日当たりを遮る所の環境作り。一般家庭でもわが家が涼しければ室外機の熱いのが隣の窓を開けている部屋に入ろうが気にしないのが自分本意になっているから、一人一人が節約をしない限り無理でしょう。

一人一人がこの問題に取り組んで行かなければ達成は無理だと思う。そして先進国だけがやっても意味が無いので、全世界的な規模でやってこそ、実現出来るものである。将来の為にゴミ問題と同様全ての人達が真剣に考えていかなければならない問題だと思う。豊かな生活を維持して行く為にも、クリアーして行かなければならない。難しい問題だと思う。

〔事業者の記述回答〕

“安いからとムダ遣いをする”“もったいないを忘れる”、省エネが大切と知りつつ、便利さと経費（金銭）に左右されるのが企業のつらいところです。安価なことが良いのではなく、将来にも良いものが良いという意識が定着するような教育（学校・社会）の積み重ねが必要だと思います。

1. 当方の勉強不足もあるが、もっとPRにも力を入れたらよい。2. 一般家庭で取り組むこと、また地域として取り組むこと、また会社の規模別に取り組むことをそれぞれ明示して欲しい。

省エネ（節電問題）社会実験の提案、環境問題は原点主義である（個々の小さな数量の掛算）、市民の持ち得る知識の活用（ナレッジマネジメント）、次代を担う子供たち（大人も含めて）の環境学習、意識の啓発、上記の3点を一つのイベントで考えると、省エネ社会実験として、10月頃の条件の良い日に節電キャンペーンをすれば良いと思います。節電の場合は、ノーカーデーと異なり個人へのデメリットは殆どなく、各家庭等で可能な範囲で実行でき、特に組織立ても不要です。この日の市内電力量を北陸電力で計測し、通年との比較等を通して（多分有意な量が下がると見込まれる）、市民個々の小さな力が市全体として大きな力となることをPRすることが今後の施策にも結びつくと考えられます。また、市民の節電アイデアコンクールを行い、その“技”・“知恵”を公表し広めることや、楽しんで節電する工夫に対する表彰があっても良いと思う。これらを通じ、市民レベルからの環境意識向上が芽生えるのではないかと感じています。

世界的な異常気象の中で環境問題は早急に取り組まねばならない事は誰もが認識しているところですが、経済成長と景気に対する影響、企業では利益の確保と経費の問題をかかえている。石油にかわる安価で低公害のエネルギーを早期に開発、実用化すべき対策が必要である。国際会議等世界レベルで継続的に対策をたててゆくことが必要である。

貸ビル入居の場合、記入し辛い部分もあります。自社ビル記入項と借ビル記入項に分けた方が良いのではと思います。

金沢市が取り組んでおります、地球温暖化防止に当社も賛同し、本年（平成15年）4月に地球温暖化防止実行計画を策定し、取り組みははじめたばかりですが、今のところは、現在使用中の施設、設備、保有車両等はそのまま、無駄を省く取り組みを主体に、電気使用量、水道使用量、コピー用紙、燃料使用量etc.の削減を目指しております。今後の課題として、施設あるいは設備の更新の際、又、車両の更新の際に省エネに配慮した器具、設備、車両の積極的導入を推進していかねばならないと考えております。本アンケートの問7や問8の省エネ推進の制度や支援制度などについて、これまで殆ど認識がありませんでした。今後はこうした制度も念頭に入れて会社として対応していきたいと思います。

1. 産業廃棄物対策...分別励行、2. 貨物自動車...軽油ガソリン車に切替、3. ペーパーレス...両面コピー、4. 電気の節減...経費の節減対策、等々、会社の経費節減と、環境に優しい、両面から取り組んでいます。

1. 市民オンブズマンなど市民から直接モニターする、2. 学校教育に取り入れる、ドイツは進んでいるので見習うこと、3. 歴史に学ぶ、戦前までは省エネの生活を教える

1. 省エネルギーを推進するための支援制度について、主な8つの支援制度の主旨をはじめて知りました、良い制度があっても、事業者に分かり示す機会が今までになかったと思いますし、気づかなかったかもしれません。今後、PRすることが必要でないかと感じます。2. 今回のアンケートで行政の縦割りを強く感じました。私はこれまで温暖化防止実行計画を策定する際は、CO2の削減をいかにするか取り組み、CO2の発生源のガソリン、軽油等燃料消費と電力使用量の削減を柱に、2000年度の基礎数値に基づいて、5ヵ年計画目標をたて、グループ3社で実行計画を推進しています。CO2の削減活動は結果として省エネルギーにはなりますが、経済産業省は省エネルギー、環境省はCO2削減がテーマであると受け止めています。3. 金沢市においては、この機会に国の縦割り行政の欠点をおぎなって、環境と省エネルギー両面にわたって検討して頂きたいと思います。4. このアンケートについて、ISO14001を取得している事業所又は温暖化防止活動に取り組んでいる事業所は回答できると思いますが、関心のない企業においては回答は難しいと感じました。

a. 地球温暖化防止対策や省エネルギーでないという商品を作らない売らないようにする。消費者は知識不足だし、知識をうえつけるのは難しいと思うので生産者のほうで考えてほしい。b. スーパー袋もスーパーのほうで(全部のスーパーで)使用禁止にすれば消費者側もMy Bag自参せざる負えなくなるので経費も削減できるし、ごみ、環境問題にもつながるのではないのでしょうか。c. 小さな子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の人達が生活しているわけですから、その人たちに難しい知識をうえつけるのはむずかしいと思います。常にそのような職の人達はおわかりかと思いますが、常にたずさわることのない者達にわかれというほうがムリなのではないのでしょうか。なんせこのアンケートをさせていただいて、非常に難しかったです。

アイドリングストップに積極的に参加しているが、公的な公用車(運転手付)などは停車中もエンジンをかけているのをよく見かける。徹底的な指導をしてもらいたい。国民には呼びかけても、足元を固めてもらう必要がある。地域性もあり、その地域にあった政策をして欲しい。たとえば踏み切りにアイドリングストップ看板を立てるとか。エンジンをかけているのがステイタスようになってしまっている。ディーゼル車の旧式エンジンタイプには税金を多くかけて、車両入替を促進する。先日石原知事が「ふんじん」をふりかけてみせていたが、そのようなコマーシャルを流して害を訴える。メーカーがいくら省エネタイプを製造しても利用者が省エネ生活をしなくてはだめなので、ライフスタイルを省エネがくせや習慣にする必要が個人個人に必要と思われる。

以前、石油危機の折、世の中全体で消エネに取り組まれました。しかし、現在は省エネを推奨する一方、規制緩和と称し、24時間営業を是認している。これは非常に矛盾していると思う。世を挙げてライトアップし夜も煌々

と建物を照らしている。必要なのだろうか。安全の為に街路灯を点灯するのは是非お願ひしたいが、観光のため、そこかしこライトアップは逆に風情を奮っている。日本は陰影礼賛の国だ。闇もまた必要だ。恐らく、各個人各企業も省エネと言いつつ、片や煌々とライトアップし、24時間営業すると、本とに省エネせんらんのかなと思うのではないかと？夜は布団に入って、休めば電気代は減るし、冷暖房費も減る。夜間の車の通行が減ればそれだけでもヒートアイランド現象は、少し緩和できるのではないだろうか。人間、太陽と共に目覚め日が暮れると休む。これが自然の摂理だ。まず学校教育の現場で快適さに慣らすより、少々寒い、暑いという環境に耐える子どもに育つように指導していけばよいと思う。未来を背負う子ども達に環境を守る授業をすすめ、まずは意識改革を底辺から積み上げていくことが長い目で地球温暖化防止の核になると思う。

今迄は消費は美德と言われて来た時代から今後は節約の時代へと変化し、限り有る資源を大切に使う、地球を守る運動を推進する、事だと思ひますが、一口で言うのは簡単で全ての面で実行に移すのは大変な事だと考えます。エコ計画も現実では分かっていても具体的にはメーカーしかし消費者も一体となって取り組んでいかなければと思ひます。身近な出来る事から一つ一つ実行していく事を考えています。

運輸会社として現在当社はエコドライブ活動を通じて貢献したく全社的に展開しております。また、「グリーン経営」に参加する予定。

オーナー自身が省エネの必要性を認識してもらわないと、企業全体としての動きに進みにくいのでオーナー教育から...

屋上庭園等を維持していくための補助金をお願いします。

温暖化防止の第一は石油を使用しない法規制が取れるような施策を打ち出すことです。人間は我慢が必要です。利便ばかりを求めすぎではないのでしょうか最小限の人間生活の中により豊かな環境があります。自社は冷房をしなくてもすごせる建物を建て活動中。車は社員の資質を高めることによって石油を減らせます。常時電灯を使わなくても良い工場づくりもある。利便性、効率向上を追及しすぎているように考えています。

企業・向上事業所の屋上等に風力発電設備を設置させ、社内(屋内)の照明等に利用させればよい。但し設備費の補助が必要かも。市内通勤はマイカー保有者でも自転車通勤を義務づけさせ、1週間に2日以上自転車使用のものには毎年の自動車税を免除する。

現在の経済状況においては、各事業所は省エネルギー節約に非常に関心が高いと思う。省エネルギーに対する支援制度を知らない方が多いのではないかと。もっと積極的にPRし、広く知らせることで利用を多くし、省エネルギーにつなげるように思う。

交通網の整備(モノレール,地下鉄等)

項目の中で我々の業種では対応出来ない部分がある。業種別にいろいろ話を聞かせてほしい。新しいものであれば対応は可能ではあるが、以前よりのものは難しいものがある。

小売業は、自主的に省エネできるのは後方関連中心になり、売場については、お客様の要望によって使用する

るのが、多い。一般の方への省エネの理解を深めていかなないと省エネは難しい。

個人的には環境問題に関心があり、些細なことでもやらないよりはマシと思ひいろいろやっていますが、周井には関心を持っている人があまりいない。事業所単位で省エネできれば良いが、それより先に仕事を優先するから、なんらかのメリットがないと取り扱ひしないと思う。使っていないところの電気を消したいけど、外からお客様が見たら暗くて分からないという声があったりして難しい。ISO14001を取得してみたいが、世間であまり認知されていないのでは。なので、そこをアピールしてもイメージ向上には結びつきにくいし、なんといっても取得費用が高すぎる。コスト面で考えるとわりが合わない。

コピーなどは紙の再利用をする

今後、地球温暖化防止対策や省エネなど環境を考えたとりくみをしていきたいと考えております。

今後の地域エネルギー対策として、太陽熱、風力、地熱、海洋深層水等の地球に優しいエネルギー利用を進めていく事が今後の地球温暖化防止対策や省エネルギー対策の民間への推進になると考えます。

産業廃棄物の削減につとめたいが、金沢ではどこの業者が分別回収してもらえるのか。インターネット等で調べたが不明である。家庭ゴミに関しては、いろいろのっているが、産廃に関してはのっていない。このような体制が、不当投棄につながるのでは。

事業者だけにとどまらず個人、国・全体、国、地方行政、全体の問題としてこれからは自然環境を大切に自然環境を破壊していくことを戒めて行きたいと思う。今からすぐ実行できることから始めていきたいと思う。たとえば、車の所有台数を減らす(一家に3台目4台目、もっている、何台かに限定する)、飛行機の便を減らす、原子力エネルギーを止めていく方向に導く、特にの問題は国の行政が増やしていく方向に進んでいるのは、いかんである(風力、水力で可能である)。これからの子ども、孫、当、子孫の未来の健康で自然に恵まれた環境を作っていくためにも難しいことからやるのではなく、手軽に、個人、個人が、又、企業が、地方自治体が、国の行政が、簡単に手がつけられる事から、やっていかれることを望みます。

高いレベルではなく、一般庶民のレベルで対応されることを望む。毎年、成長を望むのではなく、自然な形で、取り組まれますようお願いいたします。

省エネする事はたいへん重要であると思うが、電気に関しては、各企業が風力発電又は太陽光発電の装置を取り付け。少しでも電力会社から買わなくてもよい設備の導入をしたら良いと思う。たとえば、高いビルは常に風が吹き、風車を取り付けて自家発電ができる、そして国レベルで補助を出してほしいと思う。日本の将来は原子力に代わるエネルギーを風力と太陽光にシぼって考えていくべきではないだろうか？

省エネは、コスト削減意識がなければ企業には定着しない。地球温暖化防止策は、全地球規模で考えた場合、先進国と途上国の考え方にギャップがありすぎるように思う。たとえば、アジア周辺を見た場合、人口の多い中国、インド、東南アジアに世界の工場が集中しており、毎日大量のCO2が放出され続けている。やはり国

単位で世界基準を守っていくような法律がないとどうしようもない。

省エネルギーの具体的なものとしては、車が一番だと思う。車から排出されるCO2は全てが今使っているガソリンや軽油などの天然エネルギーが主で、それに替わるものがないか探している状況である。1日も早く我が国のエンジニアが世界に先がけて「夢のエンジン」を開発すれば大きな効果が期待できると思う（水素、電気など）。そうなれば、経済も回復するだろうし、地球も温暖化がにぶると思う（もうすでに研究開発が進んでいると思われるが）

オゾン、CO2など地球に対して有害な物質を、分子や原子、バイオの力で破壊できるような物質の研究も進めば良いと思う（夢のような考え方ではあるが）。又、水が浄化できるように空気（大気）も浄化可能であると思う。それには100年以上かかると思うが、長い期間をかけてももとに戻していく必要がある（未来のために）。地球は水と空気の星なのだから。

省エネは自社施策として、またグリーン購入等の環境施策は親会社との協調施策として取り組んでおります。建物が自前でなく、必ずしも自社だけの方針を策定できないという悩みはありますが、社会的要求として化石燃料の使用抑制、木材資源の消費減少（紙）を目標として対応していきたいと考えております。

省エネルギー、環境保全行動について研修会を実施して欲しい(新しい制度や機器等を含め)。省エネ関係に関して知識不足を痛感しました。

省エネルギーの価値観の認識向上

省エネルギーの商品がそうでないものより、価格が安いものなら購入する考えがある。逆に再生紙の商品は手間が掛かるせいか価格が高めなので、多少でも補助されるとありがたい。個人的にはコンビニや、少しの時間、車を離れるときもエンジンは切るようにしている。

省エネルギー推進に向けて、今すぐに取り組める項目と設備を導入しなければならぬ項目の2つにわけた冊子みたいなものを配布すれば良いと思う。個人一人一人の小さな心がけで省エネはできるものだと思うからです。今以上に環境に優しい事業者があるゆる面で優遇されるようになれば推進されると思います。

省エネを政策としてとり入れる。

省エネをネタに国の金を利用させようとしているのかな。質問内容が業者の側に立っているように感じました。現状を把握するだけのほうが納得できます。今後の計画などまでの質問はおかしいと思いました。

新築間もない為、1年間様子を見た後取り決め等を行う事も考えており、それに伴い、一部未記入の箇所があります。

水車を使用しているのですが水車から小さな電気を起こし、電気機器に使用できないかと思っている。水量は年間を通して0.5tくらいある。

地球温暖化防止対策や省エネルギーに関して、関連する民間業者、製造メーカー等や行政等が積極的な情報提供を行っていくことが大切であると思います。現在でも様々な施策や援助等を行っていると思いますが、知らないことが多く、活かしきれない現状のように思えます。

地球温暖化防止は大切な問題であり十分な姿勢の確立に協力しなければと考えております。

地球温暖化防止は大変重要なことだが、具体的なことになると、なかなかできないのが現状だと思います。特にこの不景気が続くなかで、そこまで考える余裕がないと思われます。

地球環境については奥深いものがあり、どこからどう始めればよいのかわからないので、事業所を中心に個人レベルまで。意識付けのため説明会等あればうれしいが.....

中小企業の私共は、地球温暖化防止対策や省エネルギー推進に向けてやらなければならない課題が多くあるように考えていますが、困難を極めることが多々あり、自分たちにできることを確実に実行していくこと以外に歩む道はありませんが、地道にやっていくことになります。

賃借物件のために自由に改良改善ができない

問5ですが地球上で最も排出しているアメリカ及び中国が批准しない限りダメダ

当社では休み時間の消灯や、エアコンを消して窓を開けて自然の風を入れることを社員全員心掛けています。5年ほど前、試みた当時は何だか随分貧乏くさく感じ、突然の来客の方などは、エアコンが効いて部屋の中が涼しくなるまでタマのような汗をかいておられるのを見ると、自分達が恥ずかしくなりました。しかし今は努力の甲斐があり、年々電気代が減っています。もっともっとたくさんの企業がこんなちょっとした努力をすればよいですね。

当社はエコ商品の購入はISO14001の目標目的の一項目に取り上げております。運用に際して各機関へ問い合わせしても事務用品等については資料がありますが、消耗品に該当する工具類の資料をお願いしても今のところ見当たりません。ISOの施策であるグリーン購入のプログラム進捗に苦慮しております。公的機関はあるのでしょうか。セクター的機関はあるのでしょうか。そうゆう機関でとりまとめた一覧表はあるのでしょうか。当社は産業廃棄物処理業の中間処理で解体、分別、破碎、選別の工程を業務としております。ドライバー、ペンチ、ビット、ハサミ、その他の細かい消耗品を大量に購入し、損傷、廃棄のくりかえしを行っています。グリーン購入に寄与するため再生品の使用に迫られていますので、何卒御高配賜りますようお願い申し上げます。

当社は非製造業であるため、該当項目が少ない

日本を始めとした先進国だけでやっても、あまり効果がないように思います。ダイオキシンにしても、中国やインドはどうなのでしょう？

ビル全体で管理しておりテナントとして入居している当事業所ではこのようなアンケートは対象外という気がしますが。

モデル事業所の研修の実施

やはり省エネを推進するとどうしても節電になってしまう。この為、空調や電気のOFFの励行になります。これにより節電は出来ませんが効率は悪くなります。両者のバランス取りが一番難しいところです。あまり経費を掛けずに省エネは無理なのでしょうか？支援制度が

いくつかありましたが、もっと多くの制度が確立されればと思います。不二サッシ(株)では太陽光発電システムを開発しているので、これをもっと普及させていきたいと思っています。

よく言われていることですが、夏場に男性が背広・ネクタイをして仕事しているのは、冷房温度設定が低くなるので、夏場はせめてネクタイの着用だけでもやめる。

昔の人々のような生活に少しでも近づけば。自然体で。「緑をもっともっと多く多く」「森の都緑の国」田畑川山の美しい金沢を

我社ではエアコンの電気料がものすごくかかっているので、窓をペアガラス等にすれば少し省エネになると思いますが、窓も多く、コストがかかるのでその為の補助ができればうれしいのですが

私達の事業所は本社東京で、全国的にISO14001取得し

活動しています。年度始、推進計画を立て、節減実績を報告し全社のデータで競争しています。他支店でアイデアがあれば全支店へ水平展開します。

今期の取り組みは、1.事務用紙購入枚数の削減(H14の10%減)、2.事務消耗品の削減(H14の50%減)ファイルノートのみ、3.電気消費量の削減(H14の3%減)、4.古紙リサイクルの向上(リサイクル率80%以上の維持)、5.低公害車の導入 支店はディーゼルからガソリン車へ(35台中後7台リース切れ時更改)、本社は数台ハイブリッドカー導入、6.グリーン購入の推進 購入率70%以上、ファイル、筆記具、ノート、用紙は100%グリーン購入、7.産廃物の分別徹底による低減とリサイクル、マニフェスト票の適正処理、産廃処理委託業者へ立ち入り調査見学、8.環境パトロールの実施、環境推進委員(各部門1名代表計10名)による四半期毎、チェックシートによるパトロール